

# 国鉄による九州の物資流通量

逸 見 顕 善

## 目 次

は じ め に

I. 貨物輸送の概況

II. 営業用車扱貨物の輸送量

III. 昭和43年九州国鉄による物資流通量

A. 鉱産品

B. 化学工業品

C. 農産品

D. 林産品

E. 畜産品

F. 水産品

G. 繊維工業品

H. 機器工業品

I. 食料工業品

J. 危険品

K. 雑工業品

む す び

は じ め に

本稿は国鉄の輸送統計を利用して九州地域が他地域と鉄道を通じてどのように物資の交流をおこなっているかをみようとしたものであるが、その基礎的な作業としてまず九州7県別に129品目ごとに相手都道府県別の発送と到着のとん数を原資料から転記し、それを地域ブロック別に集計しなければならない。つまり九州7県別に相手都道府県別の発送量、到着量を知りうるように組替えるのである。

つぎに全国各地域（8地域ブロック）と九州との発送、到着量（129品目別）を算出し、それを積上げ九州全域対各地域別交流量を求める。

本稿は以上の集計作業を経た算出結果の統計資料による流通量に基づいてそ

の実態を解説したものであって全くの机上調査である。そうしたことから叙述はその増減を表わすなど、きわめて平板的なものになってしまった。この種の調査としてはある程度やむをえないともいえようが、増減の原因追求などについては別に改めておこなうほかになかった。ただ物資流通の追跡調査は鉄道、自動車、海運などの輸送手段を通じて物資交流がおこなわれているのであるから、種々困難を伴う。本稿はそのうち鉄道部門のみから物資流動の一側面を観察したものに過ぎない。

以上のように原資料を利用したとはいえ、その組替作業が相当量であるため一部商品の場合は別として、全品目にわたる観察はさほど容易ではない。

国鉄では、昭和26年度以降、車扱貨物について業務資料として「主要貨物発着関係府県別とん数年報」を編さんして来た。当初のものは石炭ほか50品目と事業用有貨・無賃別石炭・砂利を計上したものに過ぎなかったが、その後、社業上の必要から調査品目もふえて、最近のものは面目を一新し上下2冊に、調査品目は12類別、140品目が計上されている（注・表1）。

この統計資料はその名称のとおり、車扱貨物の品目別、都道府県間の相互発送・到着とん数を表わしている統計資料で物資の地域間流動量をみるには、きわめて有用な資料であるが、一般に市販されていないため、意外と知られておらず、利用されていない。

#### この資料利用上の注意点

(1) 国鉄の業務資料であるため、調査品目の分類が国鉄独自のもので、一般の商品分類と違うこと。たとえば「鉱産品」といえば、普通は採取された鉱物資源を指すのであるが、この統計ではその製品である「鉄鋼」などを含んでいること、また「機器工業品」に「まくら木」、「電柱」、「かん類」が入っているなど分類上の基準が不明確である。また「化学工業品」に含まれている「ガラスびん」はアルコール飲料、清涼飲料水の空びんであって、商品ではなく容器の返送されるものである。そのため、その発送は佐賀を除き九州各県とも2万

とん前後、福岡は3.5万とんにのぼっているが、一般市場価値をもつ商品とまぎらわしいといわねばならない。

(2) 発駅本位であること。これは車扱貨物の受付駅で品名、とん数、仕向駅を調査するのみで、到着駅では発送当時の状態のまま、途中の抜荷、目盛り、行先変更などなかったものとして調査していないのである。現実には国鉄では荷主に対し毎年損害賠償を支払っているが、これらは無視されている。

(3) 調査期間が年度であること。国鉄の会計年度に合わせ、4月～翌年3月の輸送実績であって、一般の統計が暦年であるのと違うことである。

(4) 減とん制度の採用。荷主に対するサービスとして所定の割合で貨物重量を減とんする方法がとられているが、その詳細な説明は省略する。

(5) 数量はすべて「とん数」表示であること。これは輸送部門の企業であり運賃収入や輸送実績をみる業務資料である以上とん数表示であることは、やむをえないであろう。ただ便利なことは、累年比較で当該品目の増減などをみるのには好都合であるが、商品流通たとえば貿易統計などに関連せしめて利用する場合、それができないという短所もある。

(6) 「県内移動」の問題がある。それは、たとえば昭和43年度、福岡県の石炭発送とん数は569.8万とんであるが、到着は704.5万とんであって、これらのうち552.5万とんは福岡県から発送され、その仕向地が福岡県、つまり福岡県内を車扱で輸送された石炭である。むしろ福岡県は産炭地であり、また九州では石炭の大きな需要地ではあるが、上記の552.5万とんが同県内の需要とみることはできない。それは従来から若松港などは筑豊炭の移出港であり、ここへ貨車輸送された石炭が含まれており、それが小型運搬船に積換えられ関西方面へ海上輸送される石炭があることを指摘したい。同年の大阪の石炭発送量は2万とんであるが、産炭地でもない大阪からの石炭発送は海上輸送されて来た九州・山口炭などが貨車積みされて内地地方へ発送されたことが考えられる。

このような場合、鉄道輸送の中間に海上輸送が介在するので、上例の場合には筑豊から若松港へ貨車輸送された石炭が海上輸送で大阪へ陸揚され再度貨車輸送される場合には、鉄道統計では「発駅本位」のため同一石炭が重複計上される。

国鉄では車扱貨物を「主要貨物」と呼んでいるが、調査対象となっている品目とその品目の主要品をつぎにあげておこう。

表 1. 主要貨物 140 品目別一覧表

(昭和44年 3 月現在)

品 質	コード	品 目	主 な 品 目
鉱産品	01	石 炭	褐炭、瀝青炭、無煙炭、塊せん石
	02	無煙粉炭	無煙粉炭、粉せん石
	03	コークス、 コーライト	コークス、コーライト、亜炭コーライト
	04	石と石材	間知石、割石、玉石、庭石、大理石等の石材
	05	砂利と砂	砂利、火山砂利、碎石、砂
	06	鉄 鉱	鉄鉱（スケールの類を含む）、砂鉄
	07	非鉄金属鉱	{マンガン鉱、その他（金属製錬用アルミナ、焼さいを含む）}
	08	硫 化 鉱	硫化鉱（硫黄鉱を含む）
	09	りん鉱石	りん鉱石
	10	けい石およびけい砂	けい石、けい砂（粉末を含む）その他容器入のもの
	11	石 灰 石	石 灰 石
	12	ドロマイト	ドロマイト
	13	粘 土	粘 土
	14	白 土	活性白土、酸性白土を含む
	15	その他の鉱石	{黒鉛鉱、明ばん石、ばん土、真珠岩、けつ岩、せっこう、硫黄、陶土、陶石、石綿、岩綿}
	16	銑 鉄	銑 鉄
	17	銅 塊	銅塊、銅片の類
	18	普通鋼々材	{レール、外輪鋼管を除いた鋼材、けい索鋼板、ブリキ、わく鋼}
	19	その他の鋼材	{フエロアロイ、特殊鋼と同鋼材、鉄骨（組立てたもの）、鉄粉}
	20	非鉄金属	{銅、鉛、鋅、亜鉛（亜鉛基合金を含む）、アルミニウム、ジュラルミン、真鍮}
	21	金属くず	鉄くず、アルミニウムくず、その他金属くず
	22	その他の鉱産品	上記以外の鉱産品
林産品	23	原 木	丸太、仙角（銘木を除く）、木曽ひのき



表 1. 主要貨物 140 品目別一覧表 (続き 1) (昭和44年 3 月現在)

品 質	コード	品 目	主 な 品 目
林産品(続き)	24	不工製材	板類, 板子(盤)類, ひき角類, ひき割類
	25	加工製材	加工製材(ブロックを含む)
	26	パルプ用材	パルプ用材(繊維板用材を含む)
	27	坑 木	広葉樹, 坑木
	28	その他用材	{加工製材(みがき丸太を除く), まくら木用材, 電柱用材, 足場丸太
	29	その他の木材	{床板, 単板, 合板, 削片板, ハードボード, 屋根板, 天井板
	30	チ ッ プ	チップ, 広葉樹(外装に赤線を付したものに限る)
	31	薪	薪(燃料に供するものに限る, 粗だの類を含む)
	32	木 炭	木炭(木炭粉を含む)
	33	木製品と竹製品	箕とすだれ, かご, ざる(どうを含む) つりざお
	34	その他の林産品	上記以外の林産品
農産品	35	米	米
	36	麦 類	大麦, 小麦, 裸麦, えん麦, その他の麦, 精麦
	37	大 豆	大豆(脱脂大豆を含む)
	38	生甘しよ	生甘しよ
	39	生馬鈴しよ	生馬鈴しよ
	40	生 野 菜	{生大根(つけ物用丸乾大根を含む), 菜類 {(ねぎを含む), 果実類
	41	て ん 菜	てん菜
	42	つけ物類	{梅干(梅づけ, すももづけを含む), 野菜つけ物(ぬかづけ, 福神づけ)
	43	り ん ご	りんご
	44	み か ん	みかん
	45	夏みかん	夏みかん, 箱入のもの
	46	その他の果物	{なし, かき, 桃, ぶどう, びわ, バナナ, すいか いちご
	47	葉たばこ	葉たばこ
	48	わら工品	{むしろ, こも, 俵, 炭俵, かます, なわと綱(草類製のものに限る)
	49	飼料	{牧草, 穀物のぬか, 乾さなぎ(粉末を含む) ふすま

表 1. 主要貨物 140 品目別一覧表 (続き 2) (昭和44年 3 月現在)

品 質	コード	品 目	主 な 品 目
産農品(続き)	50	配合飼料	配合飼料
	51	その他の農産品	上記以外の農産品
畜産品	52	馬	馬
	53	牛	牛, 子牛
	54	豚	豚
	55	乳と乳製品	{乳 (脱脂乳を含む), コーヒー牛乳の類, 乳製品 (バター・チーズ)}
	56	鮮冷凍肉	鮮肉, 冷凍肉
	57	その他の畜産品	上記以外の畜産品
水産品	58	鮮冷凍魚	鮮魚 (蒸したものを含む), 冷凍魚
	59	塩 乾 魚	塩魚 (ぬかずけを含む), 乾魚, いかすめ
	60	その他の水産品	上記以外の水産品
化学工業品	61	硫 安	硫酸アンモニア
	62	石灰窒素	石 灰
	63	過りん酸石灰	過りん酸石灰
	64	その他の無機質肥料	{尿素, 塩化アンモニウム, 熔成りん肥料, 複合肥料, 炭酸カルシウム肥料}
	65	有機質肥料	{植物質肥料, 動物質肥料, 混合有機質肥料, その他の肥料}
	66	塩	食 塩
	67	ソーダ	{カセイカリ, カセイソーダ液体, 固体, 炭酸カリ シウム (白えん華を含む)}
	68	農 薬	農薬 (工業用に供するものを除く)
	69	工業薬品	{明ばん, アンモニア水, 塩化亜鉛, 酢酸, BHC 原末, ホウ酸, ホルマリン}
	70	工業製剤	{セメント防水速硬剤 (ポゾリスの類を含む), 蚊取線香, 消毒, 防腐, 防臭, 防虫剤}
	71	鉱 油	鉱油原油, 燈油, 軽油, 重油, 潤滑油 (機械油)
	72	油 脂	{魚油, 大豆油, なたね油, 米ぬか油, ひまし油, 牛脂等動植物性油脂}
	73	陶磁器類	{管, とい, かめ, 便器, 植木ばち, 火ばち, 食器等の陶器, 磁器全部}
	74	かわら, れんが	{かわら (粘土セメント), 石綿スレート, 耐火れんが, その他れんが}

表 1. 主要貨物 140 品目別一覧表 (続き 3)

(昭和44年 3 月現在)

品 質	コード	品 目	主 な 品 目
化学工業品 (続 き)	75	板ガラス	板ガラス (無空棒を含む)
	76	ガラスびん	{ビール, ソース, しょう油, 清油, 乳用びん, 清涼飲料水
	77	その他のガラス類	{菓子びん, 金魚びん (金魚ばちを含む), 魔法びん, その他のガラスとその製品
	78	消 石 灰	消石灰 (高温焼成石灰を含む)
	79	その他の石灰	生石灰, 焼成ドロマイト, 水酸化ドロマイト
	80	セメント	セメント (しっくい, 火山灰の類を含む)
	81	コンクリート製品	{管, とい, くい, 柱, 板, ブロック等その他コ ンクリート製品
	82	その他の窯業製品	{アスファルト, クリンカー, タイル, セメント クリンカー, 耐火モルタル
	83	その他の化学工業品	上記以外の化学工業品
機械工業品	84	産業機械	{原動機, 発動機, 運搬起重機械, 工作機械, 土木 鉋山機械, その他
	85	その他の機器類	{ミシン機械, 電気 (レントゲン, ラジオとテレビ 等の機械), 時計, メガネ, カメラ ポンプ類 (井戸ポンプ), ボイラー (部分品を含 む), 航空機, 船, 船具
	86	農 機 具	農機具 (養蚕用具類を含む)
	87	甲種の鉄道車両	自己の車輪で運転して運送されるもの
	88	その他の車両	{自動車, オートバイ, 自動車等組立てたもの, その他小兒遊戯用車類
	89	車両部分品	{鉄道車両部分, 車台, リヤカー用の車体, ゴムタイヤ, ゴムチューブ, ばね
	90	まくら木	まくら木 (チョックを含む)
	91	レールと鉄管	{レール, 鋳鉄管 (異形管を含む), 鋼管 (亜鉛メ ッキを含む)
	92	電 柱	電 柱
	93	か ん 類	{缶類 (金属製のもの, たる, おけ, 箱, タンク, 筒等を含む)
	94	その他の機器工業品	上記以外の機器工業品
食料工業品	95	小 麦 粉	小 麦 粉
	96	穀粉, 澱粉類	{甘しよ, 馬鈴しよ, 小麦等の澱粉, こんにやく 飛粉, その他の穀物澱粉類
	97	砂 糖	黒糖, その他納税未済のもの
	98	清涼飲料水類	{サイダー, 炭酸水の類, ジュース, 果汁, 果実みつ, シロップの類など

表 1. 主要貨物 140 品目別一覧表 (続き 4)

(昭和44年 3 月現在)

品 質	コード	品 目	主 な 品 目
食料工業品 (続 き)	99	た ば こ	紙巻たばこ
	100	清 酒	酒 (蒸溜酒, 加工酒を含む), 納税未済のもの
	101	合 成 酒	合成清酒, みりん, 焼ちゅう (あわもりを含む)
	102	ビ ー ル	ビール (模擬ビールを除く)
	103	その他の酒	果樹酒 (原料ぶどう酒を含まない)
	104	み そ	みそ (みそ玉を含む)
	105	しょう油	{しょう油 (代用しょう油, 固形しょう油, 粉末しょう油, しょう油もろみを含む)}
	106	かん詰びん詰食品	{食品, 野菜類とつけ物類, 果実類, 肉類, 魚介 類に属するものに限る. その他いわし, さんま, まぐろ, さば等の大衆品}
	107	その他の食料工業品	上記以外の食料工業品
繊維工業品	108	綿 花	綿花, 落綿と弾綿 (コットンリントナーを含む)
	109	動植物繊維	繭類, 真綿, 絹綿, 獣毛類, マニラ麻の類
	110	化学繊維	スフの類 (落綿を含む) その他の化学繊維
	111	綿糸綿織物	綿糸, 綿織物
	112	化学繊維糸と織物	{人絹糸, スフ糸, 人絹織物, スフ織物, その他の化学繊維織物}
	113	パ ル プ	{碎木パルプ (再製パルプを含む), 溶解パルプ, その他ウェットパルプ}
	114	新聞巻取紙	新聞巻取紙
	115	その他の紙	{ケント雑記, 便せん用紙, 書かん用紙, ノート用 紙, 画用紙, アート原紙, 重・軽包装紙, 葉書用 紙, ちり紙, 板紙等その他の紙}
	116	加工紙と紙製品	{加工紙 (セロハン紙, 経木紙, 人造竹紙の類を含 む), クレープ紙, 特殊用紙, 温床紙, 段ボール 紙箱, 筒, 袋等その他紙製品}
	117	その他の繊維工業品	上記以外の繊維工業品
雑工業品	118	家庭電器	{電気洗濯機 (脱水乾燥機を含む), 冷蔵庫, 肩風機, 蛍光灯, 電球}
	119	荷造用品	{わく (電線巻用ドラムを含む), 段ボール箱, た る, おけ, かん, タンク, ガラスびん, かご, ざ る, ふくろ等その他荷造用のもの}
	120	その他の雑工業品	上記以外の雑工業品

表 1. 主要貨物 140 品目別一覧表 (続き 5)

(昭和44年 3 月現在)

品 質	コード	品 目	主 な 品 目
危険品	121	火 薬 類	{火薬, 爆薬, カーリット, 硫酸エステル, ダイナマイト類, その他の火工品}
	122	プロパンガス	液体プロパンガス, 液化ブタン
	123	鉱油原油 (危)	鉱油原油
	124	揮発油	納税未済のもの, その他
	125	肥料硝安 (危)	{肥料用のもの (肥料取締法令による保証票を添付 したものに限る)}
	126	生 石 灰	生石灰, 低温焼成ドロマイト
	127	硫 酸	硫 酸
	128	化学薬品 (危)	{アセチレンガス, 天然ガス, 液体ガス, ベンゾ ール, トリオール, キシロール, メチルアルコール アルコール, 二酸化炭素, アセトン等その他引火 性液体}
	129	その他の危険品	上記以外の危険品
その他の貨物	130	特殊品, その他	{貨幣証券類, 貴金属, 美術品, 骨とう品等その他 引越荷物, 移動養蜂, 設営具, 大工, 石工道具, 演芸見世物用具, ふん尿その他汚わい品}
	131	小口混載	小口貨物で積合わせて車扱としたもの
	133	事業用石炭 (有賃)	石炭, 練炭
	134	事業用砂利 (有賃)	砂利, 碎石, 砂, 火山砂利
	135	事業用その他 (有賃)	上記以外の事業用貨物
	136	事業用石炭 (無賃)	石炭, 練炭
	137	事業用砂利 (無賃)	砂利, 碎石, 砂, 火山砂利
	138	事業用その他 (無賃)	上記以外の事業用貨物
		事業用以外の無 賃貨物	災害復旧, 救じゅつ品等
	139	甲種の鉄道車両	自己の車輪で運転して運送されるもの
	140	そ の 他	上記以外の無賃貨物

本稿ではこれら車扱貨物のうち一般商品すなわち荷主が運賃を支払って国鉄に貨物輸送を委託したもののみを対象として, それら貨物が九州各 7 県と都道

府県とどのように交流されたかを観察していこう、すなわち品目分類では、類別「鉱産品」(22品目)から「危険品」(9品目)の品目番号129「その他の危険品」までとする(註1)、除外品目は「その他の貨物」(品目番号130~140)であるが、発送(219.2万とん)到着(230.9万とん)の品目内訳は「小口混載」(発送23.4万とん, 到着48.5万とん), 「事業用石炭」(有・無賃の発送69.7万とん, 到着56.1万とん), 「事業用砂」(同発送28.0万とん, 到着28.9万とん), 「事業用その他貨物」(同発送40.7万とん, 到着39.4万とん), 「事業用以外の無賃貨物」(発送56.2万とん, 到着56.7万とん), 「特殊品その他」(発送9.9千とん, 到着1.1万とん)である。

このように国鉄自体の経営上必要な資材を運送したものは、一般商品ではなく市場性がないため、これら品目を除外したことに他ならないが、九州国鉄総発送貨物(2,771.0万とん)の内訳は車扱(2,623.4万とん), 小口扱(47.0万とん), 無賃扱(100.4万とん)のうち車扱が94.7%, 到着(2,814.2万とん)では車扱(2,649.5万とん), 小口扱(64.5万とん, 無賃扱(100.1万とん)のうち車扱が94.1%を占めるので、車扱貨物をみれば国鉄貨物輸送実績の大半を把握できるといえる。

(註1) 主要貨物調査は昭和26年度から開始されたが、26, 27年度は事業用品(有賃, 無賃の事業用石炭と同じく有賃, 無賃の砂利など4品目)を除き51品目(鉱産品9品目, 林産品4品目, 農産品9品目, 畜産品2品目, 水産品3品目, 化学工業品10品目, 食料工業品5品目, せん維工業品9品目)であったが、28年度からは62品目にふえている。それは「分離による増」が7品目, 「新設による増」が4品目である。調査開始当時の品目数は現在の約半数であった。現在は「事業用」その他の貨物を含め表1に示すとおり140品目であるが、これは昭和39年4月からであって、それ以前(昭和36年4月~39年3月まで)は99品目であった。ここで41品目ふえたのは主として「その他の鉱産品」を細分して3品目増, 「その他の鋼材」で1品目増, 「その他の製材」で1品目増, 「その他の林産品」で1品目増, 「その他の果物」で1品目増, 「飼料」で1品目増, 「その他の畜産品」で2品目増, 「その他の化学工業品」を6品目に細分, 「ガラスびん」で1品目増, 「その他の機器業工品」で2品目増, 「その他の食料工業品」で1品目増, 「その他の繊維工業品」で3品目増, 「その他の雑工業品」で1品目増, 「その他の危険品」で4品目増などが主なものであるが、表1に示す

調査品のうち本稿では「危険品」まで 129 品目を対象としているので、この範囲では 39 年 3 月までは 89 品目であった。

## I. 貨 物 輸 送 の 概 要

前述のように本稿で主要貨物というのは、国鉄車扱貨物のことであるが、前掲表 1 に示した主要貨物 140 品目別に「主要品別貨物府県別相互発着とん数年報」に編製されており、その最初に「有賃合計」の表題のもとに都道府県別に発送と到着とん数を計上しているの、これによって昭和 43 年度車扱貨物（有賃分、すなわち運賃収入のあったもの）についてみると、全国では 1 億 8,624 万とんが輸送されているが、発送では、これを地域別（註 2）にすると 関東

表 2—1 国鉄主要貨物発着とん数（地域別・有賃分）  
（昭和 43 年度）（単位：1,000 とん）

地 域 別	発 送	%	到 着	%
全 国 計	186,247	100.0	186,247	100.0
北 海 道	32,914	17.7	32,155	17.3
東 北	22,320	12.0	21,109	11.3
関 東	35,700	19.2	36,362	19.5
中 部	32,994	17.7	36,664	19.7
近 畿	16,773	9.0	16,588	8.9
中 国	16,075	8.6	13,789	7.4
四 国	3,234	1.7	3,083	1.7
九 州	26,234	14.1	26,496	14.2

（注）単位未満は切捨

（3,570 万とん）が全国の 19.2% を占めて首位、中部、北海道がともに 3,200 万とんでそれぞれ 17.7% に当りこれら 3 地域で全国の半ば（54.6%）を超えている。また到着でも中部、関東がいずれも 3,600 万とんで、19.7%、19.5% を占め、北海道（3,200 万とん）が 17.3% で、これら上位 3 地域で 56.5% とやはり全国の過半を占めている。

表 2—2 国鉄車扱貨物発着とん数（有貨貨物分）

（昭和43年度）

（単位：1,00とん）

県 別	発 送	到 着	県 別	発 送	到 着	県 別	発 送	到 着
北海道	32,914	32,155	中 部 計	32,994	36,664	中 国 計	16,075	13,789
東 北 計	22,320	21,109	新 潟	9,878	8,414	鳥 取	849	1,282
青 森	2,617	2,639	富 山	3,804	4,392	島 根	874	1,393
岩 手	4,582	3,152	石 川	883	1,900	岡 山	3,421	2,112
宮 城	2,887	3,390	福 井	1,676	1,656	広 島	2,233	2,427
秋 田	4,356	3,796	山 梨	1,364	1,246	山 口	8,696	6,574
山 形	1,984	2,728	長 野	2,158	4,693	四 国 計	3,234	3,083
福 島	5,892	5,402	岐 阜	2,671	1,877	徳 島	241	344
関 東 計	35,700	36,362	静 岡	4,675	6,503	香 川	517	520
茨 城	3,337	2,324	愛 知	5,880	5,980	愛 媛	825	595
栃 木	2,151	2,474	近 畿 計	16,773	16,585	高 知	1,651	1,622
群 馬	1,984	3,025	三 重	3,229	1,912	九 州 計	26,234	26,496
埼 玉	5,046	5,172	滋 賀	1,726	1,145	福 岡	18,150	18,347
千 葉	2,910	3,030	京 都	1,149	2,649	佐 賀	1,525	1,323
東 京	7,743	11,777	大 阪	4,051	5,024	長 崎	943	1,503
神 奈 川	12,525	8,558	兵 庫	5,127	4,509	熊 本	2,955	1,839
			奈 良	200	314	大 分	1,130	898
			和 歌 山	1,288	1,028	宮 崎	1,037	1,290
						鹿 児 島	491	1,294

（注）単位未満は切捨

九州は発送（全国の14.1%）、到着（同14.2%）で第4位にあり、関東、中部と共に、発送よりも到着とん数が上回り、あとの5地域は逆に発送とん数が多い地域である。

さてつぎにこれを都道府県にみると、北海道が発送・到着とも前記のように3,200万とんでトップであるが、府県単位の対比では地域が広大なのでこれを除くとすれば、発送では福岡（1,800万とん、全国の9.7%）が首位にあり、神奈川（1,200万とん、同6.7%）、新潟（987万とん）、山口（869万とん）、東京（774万とん）の順である。

到着でも福岡（1,800万とん、全国の9.9%）が第1位にあり、東京（1,100



万とん), 神奈川 (855万とん), 新潟 (841万とん), 山口 (657万とん), 静岡 (650万とん) が上位を占めている。

なお発送が到着を上回っている府県は北海道を含め21で, 到着とん数の方が多いところがやや上回っている(表2)。

(註2) わが国の地域ブロックの区分は北海道・東北・北関東・南関東・北陸・東山・東海・近畿・山陰・山陽・四国・北九州・南九州の13ブロックとする方法もあるが, 本稿は九州7県別にみた全国都道府県との鉄道貨物の流動量を示そうとするものであるから, 対地域を細分する必要はないので表2—2に示したように区分している。

## Ⅱ. 営業用車扱貨物の輸送量

国鉄が車扱貨物の輸送調査を開始した昭和26年当時の「営業用」車扱貨物(国鉄では, 国鉄経営に使用する貨物を車扱するものを「事業用」というのに対し)とは運賃収入の対象となる車扱貨物を, こう呼んでいるのであるが, そのころの調査品目(51品目)は現在の半数にも達しないとはいえ, 全国で1億441万とん(27年度9,952万とん, 28年度1億730万とん), 九州は発送2,718.9万とん(27年度2,501.7万とん, 28年度2,546.3万とん)で全国の26.0%を占めて全国首位にあるが, 九州発送の64.5%(1,752.4万とん)は石炭であることが注目される。

同じく26年度全国到着車扱貨物のうち九州(2,540万とん, 27年度2,325万とん, 28年度2,418万とん)は24.3%で発送の場合に比べやや低率であるが, それでも全国首位である。しかし九州到着の61.4%は石炭(1,485.9万とん)であることが同様に注意されねばならない。鉄道による石炭輸送は九州到着の場合, その数量は九州の需要とみなされないこと, すなわち北九州若松港などから石炭船に積換えて海上輸送により関西方面へ仕向けられるものを含んでいること前述のとおりである。

上記のように昭和26年九州車扱貨物の発送(2,718.9万とん)に比べ43年(2,497.9万とん)はむしろ減少している。参考までに26年の輸送とん数をあ

げておこう。

表 3—1 九州国鉄車扱貨物輸送とん数

(昭和26年度)

(単位：1,000とん)

品 目 類 別	発 送	%	到 着	%
総 数	27,189	100.0	25,404	100.0
鉱 産 品	19,971	73.5	18,738	73.8
(うち石炭)	(17,524)	(64.5)	(16,349)	(64.4)
林 産 品	2,591	9.5	2,440	9.6
農 産 品	1,301	4.8	1,188	4.7
畜 産 品	88	0.3	57	0.2
水 産 品	480	1.8	247	1.0
化 学 工 業 品	2,155	7.9	2,240	8.8
食 料 工 業 品	353	1.3	304	1.2
繊 維 工 業 品	244	0.9	187	0.7

(注) 単位未満切捨，資料：久留米大学商学部「九州物資流通統計表」(拙稿)

上記の17年間の減少(26～43年)は主として石炭輸送量の低減(43年発送は26年の47.3%，到着は49.7%と半減)によるものであること前述のとおりであるが，石炭発送は福岡(1,472.4万とん)，佐賀(155.8万とん)，長崎(106.3万とん)などが主な仕出県であって，これらは産炭地をもつという点で，貨物輸送上，特異な地域性をもっていることが指摘される。

表 3—2 九州国鉄車扱貨物発送とん数

(昭和26年度)

(単位：1,000とん)

品目類別	発送計	福 岡	佐 賀	長 崎	熊 本	大 分	宮 崎	鹿児島
総 数	27,189	19,592	1,884	1,574	1,177	1,035	973	951
鉱 産 品	19,971	16,835	1,604	1,130	97	120	166	16
林 産 品	2,591	251	20	26	506	561	566	658
農 産 品	1,301	562	155	107	156	80	96	142
畜 産 品	88	17	7	6	13	9	12	21
水 産 品	483	126	22	245	19	11	16	40
化学工業品	2,155	1,533	27	44	231	223	59	34
食料工業品	353	221	20	8	44	16	1	35
繊維工業品	244	44	26	5	106	11	48	1

表 3—3 同 上 到 着 と ん 数

品目類別	発送計	福 岡	佐 賀	長 崎	熊 本	大 分	宮 崎	鹿児島
総 数	25,404	19,076	1,425	1,634	1,070	688	878	629
鉱 産 品	18,738	15,537	1,032	1,149	343	256	324	95
林 産 品	2,440	1,570	108	188	249	76	172	74
農 産 品	1,188	574	67	113	117	85	73	157
畜 産 品	57	21	6	2	8	9	3	5
水 産 品	247	68	18	5	55	23	49	25
化学工業品	2,240	1,089	163	118	240	193	203	231
食料工業品	304	107	18	52	28	34	30	31
繊維工業品	187	106	10	4	28	9	20	7

資 料：同前，単位未満切捨

重要貨物の石炭がきわめて大きなウエートを占めている関係で，林産品，化学工業品，農産品の順に続くが，いずれも10%以下である（表 3—1）。

これを発送県別にみても福岡（72.1%）がズバ抜けて多く，佐賀（6.9%），長崎（5.8%）が上位にあり，到着でも九州全域の75.1% は福岡で占め，長崎（6.4%），佐賀（5.6%）の順である（表 3—2， 3—3）。

つぎに九州が全国でどのような比重を占めていたかを見よう。

表 3—4 全国地域ブロック別国鉄車扱貨物発送とん数

（昭和26年度）

（単位：1,000とん）

品目類別	総 数	九 州	北海道	東 北	関 東	中 部	近 畿	中国・ 四国
総 数	104,413	27,189	18,992	12,448	14,348	12,786	8,578	9,819
鉱 産 品	53,106	19,971	11,294	5,084	7,527	3,500	2,242	3,435
林 産 品	19,304	2,591	4,432	3,354	831	3,278	1,743	3,072
農 産 品	9,696	1,301	906	1,514	1,973	1,910	1,275	813
畜 産 品	598	88	112	108	47	76	60	105
水 産 品	2,774	483	503	503	277	307	216	482
化学工業品	13,612	2,155	1,233	1,613	2,824	2,450	1,862	1,471
食料工業品	2,280	353	161	139	744	350	368	163
繊維工業品	3,039	244	347	129	122	1,111	808	274

表 3—5 同 上 到 着 と ん 数

品目類別	総 数	九 州	北海道	東 京	関 東	中 部	近 畿	中国・ 四国
総 数	104,413	25,404	18,510	6,903	21,197	15,536	10,150	6,710
鉱 産 品	53,106	18,738	11,272	2,432	9,584	5,047	3,105	2,925
林 産 品	19,304	2,440	4,205	1,338	4,377	4,105	1,900	937
農 産 品	9,696	1,188	1,071	760	2,435	1,514	1,867	858
畜 産 品	598	57	84	60	107	83	128	75
水 産 品	2,774	247	204	374	582	610	522	232
化学工業品	13,612	2,240	1,223	1,681	2,868	2,938	1,476	1,183
食料工業品	2,280	304	243	204	607	385	314	221
繊維工業品	3,039	187	204	50	634	851	835	276

資料：同前。単位未満切捨

まず発送では九州は全国の26.0%，到着は24.3%を占め、ともに首位にあり  
 発送では北海道・関東・中部・東北などが1千万とん台でこれにつぐ。到着で  
 は関東が2.1千万 とんで第2位，北海道・中部・近畿がいずれも1千万とん台  
 でこれにつぐ。なお発送・到着とも「鉱産品」が各地域ブロックとも第1位を  
 占めているが，発送では「林産品」が第2位にあるのは九州・北海道・東北・  
 中部・中国四国で，関東・近畿では「化学工業品」が第2位を占めている。到  
 着の第2位は九州・北海道・関東・近畿であり，東北・中国四国では「化学工  
 業品」が第2位にあるなど地域ブロックによって発送品・到着品の順位や構成  
 比など若干差異がみられる。

発送・到着とも鉱産品，林産品について化学工業品・農産品が地域によって  
 幾分違うが多い品目類別である。

近畿が発送・到着において全国の1割未満であることが注目される。

ここで戦後における国鉄の貨物輸送量の推移をみると，車扱貨物が大半を占  
 め（昭和25年輸送貨物総数の97.8%，45年95.5%）ているが，小口扱は全量か  
 らすれば，その比重は小さいけれども，41年まで300万とん台であったものが，  
 42年からふえ始め，45年には約900万とんに伸びて来ている。これに対し車扱  
 貨物は2億とん（36，38，39年）に達したこともあるが，その後1億9千万

表 4—1 全国鉄道貨物輸送とん数の推移

(単位：1,000とん)

年 次	計	小 口 扱	車 扱
昭 25	135,690	3,303	132,657
30	160,246	3,769	156,478
33	167,141	2,680	164,462
34	181,403	2,782	178,620
35	195,295	3,059	192,236
36	206,395	3,324	203,071
37	201,647	3,329	198,317
38	206,060	3,256	202,794
39	206,606	3,280	203,326
40	200,010	3,015	196,995
41	195,776	3,287	192,490
42	202,570	4,980	197,594
43	198,808	6,262	192,545
44	197,172	7,583	185,966
45	198,504	8,965	189,539

資 料：国鉄コンピューター部「鉄道統計年報」

自動車輸送量（45年46.2億とん）は急増していることは、自家用（45年35.1億とん）、営業用トラック（45年 11.1億とん）の保有台数の伸びに伴ってふえていることは、いうまでもなく、これが鉄道輸送の領域に食い込んでいることも考えられる。

内国航路の貨物輸送（3.5億とん）は30年に比べ4倍にふえており、国鉄の1.77倍を輸送している。自動車・内国航路による貨物輸送量は本稿の対象外であるので、計数の吟味は省略し、国鉄と対比して民鉄・自動車・航路による貨物輸送の動向を指数化したものによってうかがう程度にとどめたい。

つぎに昭和 40年度九州国鉄車扱貨物は 発送（2.7千万とん）では 26年に比べ、わずか1.6万とんふえているに過ぎず、ほとんど変化はないとみて差支えない。しかし品目類別では「鉱産品」（25.1%減）,「林産品」（64.4%減）などの減少が目立つ一方,「化学工業品」（2.8倍増）,「農産品」（1.4倍増）など逆に

とんで推移し、44、45年は1億8千万とんに減っている。40年以降最近の動向は小口扱を含めて2億とんに近いが、その伸び悩み特にそれが車扱貨物に表われている(表 3—1)。

つぎにわが国貨物輸送量を輸送手段別にみると、鉄道のうち「民鉄」（昭和45年5.6千万とん）は国鉄の28.5%に過ぎず、そのウェートは大きくはないが25年に比べ倍増している（国鉄は46.7%増で5割はふえていない）。

表 4—2 全国貨物輸送とん数

(単位：1,000とん)

年次	陸		動	海	運
	鐵道		自 動 車	内 航	国 路
	国 鉄	民 鉄			
昭25	135,690	28,002	309,000		…
30	160,246	33,173	569,000		69,254
33	167,141	34,861	905,000		89,850
34	181,403	38,689	1,062,000		111,772
35	195,295	42,904	1,156,291		138,849
36	206,395	45,342	1,437,348		152,742
37	201,647	45,789	1,602,418		162,272
38	206,060	47,327	1,948,380		177,201
39	206,606	52,175	2,209,818		164 682
40	200,010	52,463	2,193,194		189,733
41	195,776	53,900	2,654,005		211,305
42	202,570	55,554	3,272,479		256,255
43	198,808	54,780	3,812,517		278,337
44	197,171	55,457	4,164,837		335,314
45	199,059	56,806	4,626,069		351,987

資 料：運輸省「輸送経済統計要覧」昭和46年版

表 4—3 全国貨物輸送量指数

(昭和40年=100)

年次	陸 運				海 運			
	計	鉄 道		自動車	計	内 航	外国 航路	
		国道	民鉄				輸出	輸入
昭 25	20.1	67.8	53.4	14.1	...	...	7.5	3.7
30	31.2	80.1	63.2	25.9	32.2	36.5	41.9	22.1
33	45.3	83.6	66.4	41.3	43.4	47.4	60.2	33.2
34	52.4	90.7	73.7	48.4	53.6	58.9	62.5	41.5
35	57.0	97.6	81.8	52.7	65.3	73.2	68.4	48.2
36	69.1	103.2	86.4	65.5	72.1	80.5	69.6	54.6
37	75.6	100.8	87.3	73.1	79.2	85.5	84.4	65.3
38	90.0	103.0	90.2	88.8	88.8	93.4	92.7	78.7
39	100.9	103.3	99.5	100.8	87.7	86.8	104.9	88.0
40	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
41	118.7	97.9	102.7	121.0	116.4	111.4	106.7	128.1
42	144.4	101.3	104.7	149.2	140.8	135.1	110.1	155.9
43	166.3	99.4	103.2	173.8	157.7	146.7	145.2	182.1
44	180.6	98.6	105.7	189.9	188.7	176.7	178.3	215.1
45	199.6	99.5	108.3	210.9	206.5	185.5	181.2	241.8

(註) 資 料：運輸省編「輸送経済統計要覧」昭和46年版  
 国鉄貨物輸送量は有無貨の合計

表 5—1 九州国鉄車扱貨物発送とん数

(昭和40年度)

(単位：1,000とん)

品目類別	九 州 発送計	福 岡	佐 賀	長 崎	熊 本	大 分	宮 崎	鹿児島
総 数	27,205	18,989	1,998	1,213	2,153	1,081	1,125	642
鉱 産 品	14,968	11,999	1,350	667	732	93	87	37
林 産 品	923	60	21	16	220	125	339	140
農 産 品	1,866	819	261	103	295	149	114	123
畜 産 品	60	3	1	2	8	5	15	23
水 産 品	768	257	146	303	5	10	15	30
化学工業品	6,091	4,805	76	61	376	497	202	71
機械工業品	563	261	41	27	111	36	47	37
食料工業品	577	288	43	13	75	30	62	64
繊維工業品	610	88	25	5	217	36	146	90
雑 工 業 品	230	99	27	5	57	13	13	13
危 険 品	544	306	4	5	51	84	81	11

表 5—2 同 上 到 着 と ん 数

総 数	26,670	18,478	1,344	1,584	1,701	946	1,369	1,245
鉱 産 品	15,086	12,861	712	972	207	110	166	56
林 産 品	787	284	37	44	167	152	35	65
農 産 品	1,707	586	144	151	200	126	189	307
畜 産 品	52	23	4	2	5	5	4	7
水 産 品	188	71	13	13	33	15	17	24
化学工業品	6,035	3,335	256	263	698	345	606	529
機械工業品	626	324	24	36	58	77	71	33
食料工業品	733	309	42	59	83	52	79	105
繊維工業品	521	317	35	8	60	15	52	33
雑 工 業 品	285	132	9	10	32	23	37	39
危 険 品	644	281	63	23	152	20	108	43

(注) 資 料：同前。単位未満切捨

ふえているが、品目が26年（48品目）に比べ、40年（129品目）は大きくふえているので、厳密な比較はできない。

発送仕出県別では福岡（69.8%）、熊本（7.9%）、佐賀（7.3%）、長崎（4.5

表 5—3 九州国鉄車扱貨物発送とん数

(昭和40年度)

(単位：1,000とん)

仕向地	九 州 発送計	鉱産品	林産品	農産品	畜産品	水産品	化学工 業品	機 械 工業品	食 料 工業品	織 維 工業品	鞋 業	工 品	危険 工 品
総 数	27,205	14,968	923	1,866	60	768	6,091	563	577	610	230	544	
北海道	42	2	2	9	1	2	4	5	3	0	6	1	
東 北	112	16	5	14	1	12	23	9	7	1	15	6	
関 東	815	65	82	188	12	121	114	48	28	80	40	32	
中 部	826	134	64	86	4	177	148	21	25	98	30	32	
近 畿	1,125	87	97	242	24	192	209	36	51	111	27	44	
中 国	1,547	336	86	134	3	138	513	149	103	29	22	29	
四 国	145	10	5	34	1	19	29	2	6	30	2	2	
九 州	22,590	14,314	578	1,156	11	104	5,047	289	351	257	85	394	

(注) 資 料：佐賀大学経済学部「九州地域国鉄車扱貨物統計年報」(拙稿)による。

単位未満切捨

表 5—4 同 上 到 着 と ん 数

総 数	26,670	15,086	787	1,707	52	188	6,035	626	733	521	285	644	
北海道	60	2	11	11	11	9	0	1	4	7	0	0	
東 北	203	17	10	118	3	10	10	5	11	3	6	5	
関 東	480	61	2	29	5	25	87	125	60	23	48	8	
中 部	628	103	23	93	3	4	110	65	71	103	37	9	
近 畿	734	87	7	65	12	18	224	97	76	46	60	36	
中 国	1,866	496	151	194	3	16	534	37	152	60	33	185	
四 国	104	3	1	36	0	0	19	2	5	19	11	2	
九 州	22,590	14,314	578	1,156	11	104	5,047	289	351	257	85	394	

%), 宮崎 (4.1%), 大分 (4.0%), 鹿児島 (2.4%) の順で, 石炭・鉄鋼・肥料などの生産地であるため福岡が九州発送の 7 割近くを占めている。

発送品を品目類別にすると九州全域では鉱産品 (55.0%) が過半を占め, 化学工業品 (22.4%), 農産品 (6.9%), 林産品 (3.4%) の順で畜産品 (0.2%) 雑工業品 (0.8%) を除き, 残りの 5 品目類別はいずれも 2.0% 台である。

到着でも福岡 (69.3%) が首位, 熊本 (6.4%), 長崎 (5.9%), 宮崎 (5.1



%), 佐賀 (5.0%), 鹿児島 (4.7%), 大分 (3.6%) の順であるが、発送の場合に比べ多少順位が異なる。品目類別ではやはり鉱産品 (56.6%) が過半を占め化学工業品 (22.6%), 農産品 (6.4%), 林産品 (3.0%) が上位にあり, 食料工業品 (2.7%), 危険品 (2.4%), 機械工業品 (2.3%), 繊維工業品 (2.0%) と続き, 水産品 (0.7%), 畜産品 (0.2%) は1%未満である。

### Ⅲ. 昭和43年九州国鉄による物資流通量

43年九州発送(2497.9万とん)は40年度(2720.5万とん)に比べ8.2%減 (222.6万とん減), これを品目別にみると, ふえたものは農産品 (5.8%増), 化学工業品 (5.7%増), 食料工業品 (5.4%), 繊維工業品 (5.7%増), 危険品 (14.5%増) で逆に減少したものは鉱産品 (13.4%減), 林産品 (29.0%減), 畜産品 (66.6%減), 水産品 (31.7%減), 機械工業品 (27.0%減), 雑製品 (52.6%減) である。

43年九州到着 (2511.7万とん) は40年 (2667.0万とん) に比べ 5.8%減, まず鉱産品は到着貨物の52.0% (40年は56.6%) と過半を占めるが, この3年間に14.5%著減, 林産品も24.8%減, 畜産品 (30.8%減), 水産品 (29.8%減), 食料工業品 (8.3%減), 雑工業品 (28.8%減) がこのように減少したのに対し農産品 (3.2%増), 化学工業品 (10.5%増), 機器工業品 (23.2%増), 繊維工業品 (0.2%増), 危険品 (9.6%増) は増えている。全到着の減 (155.3万とんより鉱産品の減 (203.7万とん) が上回っており, 全発送の減 (222.6万とん) に対し鉱産品の減 (200万とん) が大きな比重を占めている。この統計が物量を重量 (とん) で表示しているため, 産炭地をもつ北九州の石炭輸送が大きな比重を占めているが, 昭和31年以降九州で整理された炭鉱数412, 生産量で2116万とん, 労務者8.8万とんに達し, 全国の整理炭鉱 (746) に対し55.2%,

出炭量で62.3%，労働力で67.9%とそれぞれ半ばを超えている。

つぎに発送，到着貨物をそれぞれ品目類別で示し(1)これを九州7県別に示したものと，(2)九州全域からみた相手地域別に示したものを表式化してあげておく。これらはいずれも実数をあげるとともに，比率をも併記してその構成比を示してあるので，上記の2表については解説は省略したい。

#### A. 鋳 産 品

九州発送貨物中，鋳産品（1296.9万とん）は過半（51.9%）を占め，その仕出地は福岡（77.8%）がその大井を占め，熊本（12.1%），佐賀（5.8%），長崎（3.3%）の順である。鋳産品（22品目）のうち発送とん数の多いものは「石炭」（828.6万とん）でその68.8%は福岡（569.8万とん）が占め熊本（147.2万とんで17.8%），佐賀（73.2万とんで8.8%），長崎（38.2万とんで4.6%）の順である。

ここで九州（昭44年3月末炭鋳数61，うち福岡42，佐賀4，長崎12，熊本3）の石炭生産をみると，43年度全国生産（4628.1万とん）のうち北海道（2127.1万とんで全国の46%）について九州（2098.万とんで43.4%）は第2位にあるが，福岡（132.77万とん），長崎（526.7万とん），佐賀（127.4万とん），熊本（26.5万とん）の順である。

炭種別生産量は「一般炭」（1428.9万とん）が70.9%で最も多く，42年度に比べ微増（0.1%増）しており，「原料炭」（.09.3万とん）が25.3%（対前年比0.8%），「せん石」（44.1万とんで全生産の2.2%）は前年よりも5.8%，減少している。ついで「無煙炭」（32.9万とん）は1.6%に当り，これまた5.6%の減少である。

九州地内の炭種別荷量（1084.6万とん）のうち，「一般炭」（728.1万とん），「原料炭」（335.9万とん），「無煙炭・せん石」（20.4万とん）の順で全体として荷渡量は前年に比べ6.8%減を示している。この43年荷渡量を産業別にすると電気業（547.7万とん）が全体の50.5%，製造業（484.4万とん）が

表 5—5 九 州 国 鉄 車 扱

(昭和43年度)

品 目 類 別	九州発送計	仕 出		
		福 岡	佐 賀	長 崎
総 数 (%)	24,979〔100.0〕 (100.0)	17,348〔100.0〕 (69.5)	1,376〔100.0〕 (5.5)	871〔100.0〕 (3.5)
鉱 産 品 (%)	12,969〔51.9〕 (100.0)	10,091〔58.2〕 (77.8)	745〔54.1〕 (5.8)	423〔48.5〕 (3.3)
林 産 品 (%)	655〔2.6〕 (100.0)	58〔0.3〕 (9.0)	11〔0.8〕 (1.7)	25〔2.9〕 (3.8)
農 産 品 (%)	1,974〔7.9〕 (100.0)	329〔24.0〕 (45.6)	899〔5.2〕 (16.7)	94〔10.9〕 (4.8)
畜 産 品 (%)	20〔0.1〕 (100.0)	3〔0.0〕 (20.0)	1〔0.1〕 (5.0)	1〔0.1〕 (0.0)
水 産 品 (%)	524〔2.1〕 (100.0)	175〔1.0〕 (33.4)	112〔8.2〕 (21.6)	218〔25.1〕 (41.8)
化学工業品 (%)	6,437〔25.8〕 (100.0)	5,067〔29.2〕 (78.7)	62〔4.6〕 (1.0)	59〔6.8〕 (0.9)
機器工業品 (%)	411〔1.7〕 (100.0)	195〔1.1〕 (47.5)	22〔1.7〕 (5.6)	28〔3.3〕 (7.1)
食料工業品 (%)	608〔2.4〕 (100.0)	379〔2.2〕 (62.4)	42〔3.0〕 (6.9)	10〔1.3〕 (1.8)
繊維工業品 (%)	645〔2.6〕 (100.0)	80〔0.5〕 (12.4)	21〔1.5〕 (3.2)	5〔0.6〕 (0.5)
雑 工 業 品 (%)	109〔0.4〕 (100.0)	58〔0.3〕 (52.7)	5〔0.4〕 (5.4)	2〔0.3〕 (2.7)
危 険 品 (%)	623〔2.5〕 (100.0)	338〔1.9〕 (54.2)	21〔1.6〕 (3.5)	1〔0.2〕 (0.3)

貨物発送とん数

(単位：1,000とん)

地			
熊 本	大 分	宮 崎	鹿 児 島
2,810〔100.0〕 (11.2)	1,103〔100.0〕 (4.4)	1,012〔100.0〕 (4.1)	456〔100.0〕 (1.8)
1,565〔55.7〕 (12.1)	82〔7.4〕 (0.6)	30〔3.1〕 (0.2)	30〔6.6〕 (0.2)
152〔5.4〕 (23.3)	79〔7.2〕 (12.0)	245〔24.3〕 (37.5)	83〔18.2〕 (12.7)
260〔9.2〕 (13.2)	165〔15.0〕 (8.3)	118〔11.6〕 (6.0)	105〔23.2〕 (5.4)
1〔0.1〕 (10.0)	1〔0.2〕 (10.0)	7〔0.7〕 (35.0)	3〔0.9〕 (20.0)
2〔0.1〕 (0.4)	4〔0.4〕 (0.7)	3〔0.3〕 (0.6)	8〔1.8〕 (1.5)
381〔13.6〕 (5.9)	546〔49.5〕 (8.5)	265〔26.1〕 (4.1)	54〔11.8〕 (0.8)
86〔3.1〕 (20.9)	35〔3.2〕 (8.5)	25〔2.6〕 (6.3)	17〔3.7〕 (4.1)
67〔2.4〕 (11.0)	21〔2.0〕 (3.6)	35〔3.5〕 (5.9)	51〔11.2〕 (8.4)
24〔8.6〕 (37.5)	36〔3.3〕 (5.6)	172〔17.0〕 (26.7)	88〔19.5〕 (18.3)
17〔0.6〕 (16.4)	8〔0.8〕 (8.2)	9〔0.9〕 (8.2)	7〔1.5〕 (6.4)
32〔1.2〕 (5.3)	122〔11.0〕 (19.6)	100〔9.9〕 (16.0)	6〔1.5〕 (1.1)

表 5—6                      同    上    到    着  
(昭和43年度)

品 目 類 別	九州到着計	到                      着		
		福      岡	佐      賀	長      崎
総              数 (%)	25,117〔100.0〕 (100.0)	17,687〔100.0〕 (70.4)	1,180〔100.0〕 (4.7)	1,420〔100.0〕 (5.7)
鉱    産    品 (%)	13,049〔51.9〕 (100.0)	11,508〔65.1〕 (88.2)	476〔40.4〕 (3.7)	727〔51.2〕 (5.6)
林    産    品 (%)	592〔2.4〕 (100.0)	135〔0.8〕 (22.9)	32〔2.7〕 (5.4)	30〔2.1〕 (5.2)
農    産    品 (%)	1,761〔7.0〕 (100.0)	595〔3.4〕 (33.8)	143〔12.2〕 (8.2)	165〔11.6〕 (9.4)
畜    産    品 (%)	36〔0.1〕 (100.0)	19〔0.1〕 (52.8)	5〔0.4〕 (13.8)	1〔0.1〕 (3.6)
水    産    品 (%)	132〔0.5〕 (100.0)	57〔0.3〕 (43.0)	9〔0.8〕 (7.4)	12〔0.9〕 (9.4)
化学工業品 (%)	6,667〔26.5〕 (100.0)	4,014〔22.7〕 (60.2)	326〔27.6〕 (4.9)	312〔22.0〕 (4.7)
機器工業品 (%)	771〔3.1〕 (100.0)	481〔2.7〕 (62.5)	28〔2.5〕 (3.7)	38〔2.7〕 (4.9)
食料工業品 (%)	672〔2.7〕 (100.0)	253〔1.4〕 (37.7)	40〔3.4〕 (6.0)	79〔5.6〕 (11.9)
繊維工業品 (%)	522〔2.1〕 (100.0)	317〔1.8〕 (60.7)	39〔3.4〕 (7.6)	11〔0.8〕 (2.2)
雑    工    業    品 (%)	203〔0.8〕 (100.0)	123〔0.7〕 (60.6)	6〔0.6〕 (3.3)	6〔0.5〕 (3.2)
危    険    品 (%)	706〔2.8〕 (100.0)	35〔2.5〕 (25.5)	70〔6.0〕 (9.9)	180〔1.0〕 (5.0)

と ん 数

(単位：1.000とん)

地			
熊 本	大 分	宮 崎	鹿 児 島
1,688[100.0] (6.7)	810[100.0] (3.2)	1,198[100.0] (4.8)	1,131[100.0] (4.5)
124 [7.4] (0.9)	93 [115] (0.7)	81 [6.8] (0.6)	37 [3.3] (0.3)
153 [9.1] (25.8)	119 [14.8] (20.2)	51 [4.3] (8.7)	70 [6.2] (11.8)
198 [11.8] (11.3)	116 [14.4] (6.6)	209 [17.5] (11.9)	331 [29.3] (18.8)
2 [0.1] (5.6)	2 [0.3] (6.1)	2 [0.2] (5.9)	4 [0.4] (12.2)
17 [1.1] (13.5)	13 [1.6] (9.9)	3 [0.3] (2.9)	18 [1.6] (13.9)
759 [45.0] (11.4)	279 [34.5] (4.2)	519 [43.3] (7.8)	455 [40.2] (4.9)
52 [3.1] (6.9)	71 [8.8] (9.3)	60 [5.0] (7.8)	37 [3.4] (4.9)
76 [4.5] (11.5)	53 [6.7] (8.0)	77 [6.5] (11.5)	90 [8.0] (13.4)
73 [4.3] (14.0)	16 [2.0] (3.1)	39 [3.3] (7.5)	24 [2.2] (4.8)
16 [1.0] (8.3)	16 [2.1] (8.3)	19 [1.6] (9.7)	13 [1.2] (6.5)
212[12.6] (30.1)	26 [3.3] (3.8)	134 [11.2] (19.0)	47 [4.2] (6.7)

表 5—7 九 州 国 鉄 車 扱

(昭和43年度)

品 目 類 別	九州発送計	仕 向		
		北 海 道	東 北	関 東
総 数 (%)	24,979 (100.0)	56[100.0] (0.2)	112[100.0] (0.4)	802[100.0] (3.2)
鉱 産 品 (%)	12,969 (100.0)	3 [5.2] (0.0)	14 [12.8] (0.1)	69 [8.6] (0.5)
林 産 品 (%)	655 (100.0)	2 [4.7] (0.4)	6 [6.0] (1.0)	31 [3.9] (4.7)
農 産 品 (%)	1,974 (100.0)	20 [36.6] (1.0)	22 [22.2] (1.1)	259 [32.3] (13.1)
畜 産 品 (%)	20 (100.0)	1 [1.6] (4.6)	0 [0.9] (3.5)	4 [0.5] (19.4)
水 産 品 (%)	524 (100.0)	2 [4.2] (0.4)	6 [5.1] (1.1)	94 [11.7] (17.9)
化学工業品 (%)	6,437 (100.0)	6 [11.2] (0.1)	17 [14.5] (0.3)	107 [13.3] (1.6)
機器工業品 (%)	411 (100.0)	9 [16.7] (2.3)	19 [16.2] (4.6)	59 [7.4] (14.4)
食料工業品 (%)	608 (100.0)	3 [5.9] (0.5)	9 [8.6] (1.5)	35 [4.4] (5.8)
繊維工業品 (%)	645 (100.0)	1 [1.3] (0.1)	4 [3.4] (0.6)	86 [10.7] (13.3)
雑 工 業 品 (%)	109 (100.0)	5 [9.3] (4.7)	4 [3.4] (4.0)	21 [2.7] (19.7)
危 険 品 (%)	623 (100.0)	2 [3.3] (0.3)	8 [6.8] (1.3)	36 [4.5] (5.8)

## 貨物発送とん数

(単位：1,000とん)

地 域				
中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州
717〔100.0〕 (2.9)	1,054〔100.0〕 (4.2)	1,355〔100.0〕 (5.4)	133〔100.0〕 (0.5)	20,747〔100.0〕 (83.9)
149〔20.9〕 (1.2)	174〔16.8〕 (1.3)	363〔26.8〕 (2.8)	16〔12.6〕 (0.1)	12,177〔58.7〕 (93.9)
49〔6.9〕 (7.6)	55〔5.3〕 (8.5)	81〔6.1〕 (12.4)	7〔6.0〕 (1.2)	420〔2.0〕 (64.2)
64〔9.0〕 (3.3)	183〔16.6〕 (9.3)	149〔11.0〕 (7.5)	11〔8.3〕 (0.6)	1,264〔6.1〕 (64.1)
1〔0.2〕 (7.7)	5〔0.6〕 (27.8)	1〔0.1〕 (6.0)	1〔1.0〕 (6.5)	4〔0.0〕 (24.4)
110〔15.4〕 (21.0)	167〔16.0〕 (31.9)	97〔7.2〕 (18.5)	14〔10.9〕 (2.8)	32〔0.2〕 (6.3)
127〔17.6〕 (2.0)	207〔19.8〕 (3.2)	405〔30.0〕 (6.3)	30〔23.1〕 (0.5)	5,536〔26.7〕 (86.0)
28〔4.0〕 (7.0)	19〔1.8〕 (4.6)	73〔5.4〕 (17.8)	10〔7.3〕 (2.4)	192〔0.9〕 (46.8)
19〔2.7〕 (3.1)	46〔4.4〕 (7.6)	91〔6.7〕 (15.0)	5〔3.7〕 (0.8)	399〔1.9〕 (65.6)
122〔17.1〕 (19.1)	139〔13.4〕 (21.7)	36〔2.7〕 (5.7)	31〔23.5〕 (4.8)	224〔1.1〕 (34.7)
8〔1.2〕 (7.8)	19〔1.8〕 (17.3)	12〔0.9〕 (11.1)	2〔1.7〕 (2.1)	36〔0.2〕 (33.2)
36〔5.0〕 (5.8)	37〔3.5〕 (5.9)	44〔3.2〕 (7.2)	2〔1.8〕 (0.3)	457〔2.2〕 (75.3)



## 5—8 同 上 到 着

(昭和43年度)

品 目 類 別	九州到着計	仕 出		
		北 海 道	東 北	関 東
総 数 (%)	25,117 (100.0)	70〔100.0〕 (0.3)	164〔100.0〕 (0.6)	579〔100.0〕 (2.3)
鉱 産 品 (%)	13,049 (100.0)	1 〔2.3〕 (0.0)	13 〔8.5〕 (0.1)	53 〔9.3〕 (0.4)
林 産 品 (%)	592 (100.0)	12 〔17.6〕 (2.1)	9 〔6.0〕 (1.7)	3 〔0.6〕 (0.6)
農 産 品 (%)	1,761 (100.0)	13 〔19.1〕 (0.8)	72 〔44.2〕 (4.1)	34 〔5.9〕 (1.9)
畜 産 品 (%)	36 (100.0)	12 〔18.4〕 (31.9)	1 〔0.8〕 (3.8)	〔30.6〕 (9.8)
水 産 品 (%)	132 (100.0)	11 〔16.9〕 (0.5)	12 〔7.7〕 (8.9)	32 〔5.6〕 (9.5)
化学工業品 (%)	6,667 (100.0)	1 〔1.6〕 (0.0)	13 〔8.0〕 (0.2)	103 〔17.9〕 (1.6)
機器工業品 (%)	771 (100.0)	2 〔3.0〕 (0.3)	11 〔6.8〕 (1.4)	206 〔35.6〕 (26.8)
食料工業品 (%)	672 (100.0)	7 〔10.4〕 (1.1)	15 〔9.2〕 (2.2)	57 〔10.0〕 (8.6)
繊維工業品 (%)	522 (100.0)	7 〔10.0〕 (1.3)	3 〔2.4〕 (0.8)	22 〔3.9〕 (4.4)
雑 工 業 品 (%)	203 (100.0)	0 〔0.7〕 (3.0)	5 〔3.1〕 (2.5)	51 〔8.8〕 (25.1)
危 険 品 (%)	706 (100.0)	0 〔0.2〕 (0.0)	5 〔3.5〕 (0.8)	10 〔1.8〕 (1.5)

(注) 単位未満切捨

と ん 数

(単位：1,000とん)

地		域		
中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州
742〔100.0〕 (3.0)	844〔100.0〕 (3.4)	1,843〔100.0〕 (7.3)	125〔100.0〕 (0.5)	20,747〔100.0〕 (82.6)
120〔16.3〕 (0.9)	101〔12.0〕 (0.8)	572〔31.0〕 (4.4)	7〔6.0〕 (0.1)	12,177〔58.7〕 (93.3)
29〔3.9〕 (4.9)	6〔0.7〕 (1.0)	108〔5.9〕 (18.3)	2〔2.3〕 (0.5)	420〔2.0〕 (70.9)
70〔9.5〕 (4.0)	109〔12.9〕 (6.1)	165〔9.0〕 (9.4)	31〔25.2〕 (1.8)	1,264〔6.1〕 (71.8)
3〔0.4〕 (8.6)	8〔1.0〕 (22.9)	2〔0.1〕 (5.8)	0〔0.8〕 (0.9)	4〔0.0〕 (13.2)
3〔0.5〕 (24.6)	26〔3.2〕 (20.1)	12〔0.7〕 (9.4)	0〔0.3〕 (0.3)	32〔0.2〕 (24.6)
126〔17.1〕 (1.9)	288〔34.2〕 (4.3)	572〔31.1〕 (8.6)	25〔20.3〕 (0.4)	5,536〔26.7〕 (83.0)
175〔23.6〕 (22.8)	122〔14.5〕 (15.9)	46〔2.5〕 (6.1)	13〔11.1〕 (1.8)	192〔0.9〕 (24.9)
52〔7.1〕 (7.9)	68〔8.1〕 (10.2)	64〔3.5〕 (9.6)	6〔5.5〕 (1.0)	399〔1.9〕 (59.4)
114〔15.4〕 (21.8)	49〔5.9〕 (9.5)	73〔4.0〕 (14.2)	26〔21.4〕 (5.1)	224〔1.1〕 (42.9)
37〔5.0〕 (18.2)	52〔6.2〕 (25.6)	18〔1.0〕 (8.9)	3〔2.5〕 (1.5)	36〔0.2〕 (17.9)
8〔1.1〕 (1.2)	10〔1.3〕 (1.5)	207〔11.2〕 (29.3)	6〔5.0〕 (0.9)	457〔2.2〕 (64.8)

44.7%でこれにつき、製造業のうちの大口需要はコークス製造業（159.6万りん）、高炉による製鉄業（185.4万とん）、煉炭豆炭製造業（51.3万とん）、窯業土石製品製造業（41.6万とん）である。製造業につぐものとして鉄道業（27.2万とん）であるが、前記2産業とは比較にならない。このほか鉱業（8.1万とん）、ガス業（4.1万とん）、その他煖ちゅう房用（10.3万とん）、輸出（2.4万とん）などである。

表 6—1 九州石炭積出量  
(昭43) (単位：1,000とん)

仕向地(局別)		発送とん数	対前年比
総	数	24,743.6	100.9
仙	台	137.3	124.4
関	東	648.4	90.1
新	潟	3.9	21.0
東	海	1,323.2	91.0
北	陸	10.5	44.0
大	阪	6,518.0	130.0
広	島	2,817.5	105.1
四	国	710.3	98.9
福	岡	3,393.8	52.6
輸	出	24.9	53.9
鉱業所	払出	9,155.3	125.7

(注) 福岡通産局編「九州通商産業年報」44年版

これを仕向地別（通産局別）にすると大阪局（26.3%）、福岡（13.7%）、広島（11.4%）、東海（5.3%）のほか鉱業所払出（37.0%）が大きく以上で93.7%に当る。

車扱貨物の「石炭」発送（828.6万とん）は98.6万とん）、はその仕向先の98.8%が九州向け（818.4万とん）であるが、福岡通産局の資料により管外が管内需要を上回っているのであって、石炭の九州到着（818.8万とん）のうち九州内を仕出地とするもの（818.4万とん）がその大半を占め福岡へ

704.5万とんが到着していることは、若松港などから船積され、九州管外へ積出されたことを示すものであろう。

「無煙粉炭」の発送（25.5万とん）は九州向け（21.8万とん）が85.5%を占め、福岡が発送の大半（24.9万とん）を占めている。到着（31.8万とん）は「九州内から」到着（21.8万とん）したほか「中国地方から」9.9万とんが着荷し福岡着（27.8万とん）が87.5%を占めている。

つぎに「石灰石」は43年生産目標3千万とんを超えることはできなかったが（2904.4万とん）、全国生産の30.9%を占め前年に比べ12.8%増を示した。津久

見地区は隣接の臼杵にセメント工場が建設された。そのほか小倉地区の三菱東谷鉱山では採掘にリッパ工法を導入し生産、保安に改善を加えた。九州の石灰石産地は大分県津久見、福岡県恒見、小倉、田川地区などである。

石灰石の国鉄輸送は発送（311.6万とん）の大半を福岡（311.5万とん）で占め、仕向先は中国向け（117とん）以外は九州向け（311.6万とん）である。到着（337.8万とん）もその大半が福岡着（337.6万とん）で長崎着（1.4千とん）がこれにつぐが、量的には比較にならない。

ここで石灰石以外の非金属鉱物の生産をみておこう。

「炉材けい石」の生産（37.1万とん）は前年比20.3%増、全国生産の73.2%に当る。40年以降コークス炉用レンガの需要が急増したためであるが、主な産

表6—2 九州非金属鉱物生産量

(昭43)

鉱 種 別	種 別	生産量 (とん)	対 前 年 比	対 全 国 比
硫 黄	精 製	3,966	96.2	1.5
軟 け い 石	精 鉱	1,272,063	98.5	34.8
白 け い 石	〃	11,228	47.1	0.7
炉 材 け い 石	〃	371,380	120.3	73.2
石 灰 石	〃	29,044,792	112.8	30.9
陶 石	〃	150,007	116.5	50.4
カ オ リ ン	〃	72,268	106.6	44.9
ダイアスポア	〃	3,166	107.4	88.8
ろ う 石	〃	109,321	124.7	6.9
ろう石クレ	〃	10,662	117.3	2.6
耐 火 粘 土	〃	106,281	151.6	10.9
ド ロ マ イ ト	〃	135,519	108.3	6.0

資 料：九州通商産業年報、昭44年版

地は大分県四浦、福岡県田川地区である。

このほか「軟けい石」（127.2万とん）は前年よりも1.5%減少しているが、全国生産の34.8%に当り、「白けい石」（1.1万とん）は前年よりも52.9%著減している。

「陶石」は熊本県天草、長崎県厳原、佐賀県有田を主産地とするが、九州の生産（15万とん）は全国の半ば（50.4%）を超え前年よりも16.5%増を示した。

「耐火粘土」（10.6万とん）は全国生産の10.9%に当り前年に比べ51.6%著増しているが、筑豊地区炭坑の閉山により耐火粘土の出鉱は減勢にあることを指摘せねばならない。

「ろう石」（10.9万とん）は長崎県福江島の五島、田尾鉱山が産出地で対前年比24.7%増、全国生産の6.9%に過ぎない。

「カオリン」（7.2万とん）は前年より6.6%増、全国生産の44.9%に当る。鹿児島県下の鉱山が製紙用カオリン需要に対し増産したほか長崎県厳原が白色セメント用に増産した。

鉄鋼の全国生産は各地に相ついで建設された新鋭製鉄所の操業が本格化したため43年鉄鋼生産は前年（23.7%増）に比べ15%増、粗鋼8.2%増（前年22.9%増）、普通鋼熱間圧延鋼材9.7%増（前年21.5%増）と伸び率は低下したが、生産量は新記録を示した。

九州では新規製鉄所の建設がないため鉄鋼生産の全国に占める比率は鉄鋼で43年17.4%（35年は34.2%）、粗鋼15.3%（35年25.6%）、普通鋼熱間圧延鋼材13.5%（35年24.4%）に低下している。鉄鋼8,389千とん（前年比3%増）、粗鋼10,523千とん（前年比5%減）、普通鋼熱間圧延鋼材6,980千とん（前年に同じ）、特殊鋼熱間圧延鋼材652千とん（前年比35%増）の生産をあげたが、このうち特殊鋼熱間圧延鋼材が大きく伸びたのは自動車、一般機械部門の好調を反映しているもので、これに伴い特殊鋼粗鋼22%増、フェロアロイ22%増を示した。普通鋼熱間圧延鋼材では管財が54%増、広幅帯鋼8%増のほかは低調で、厚板は21%減となったが、粗鋼の5%減は平炉が作業を休止したことによるものである。

43年4月八幡製鉄戸畑2号高炉火入れがおこなわれ、5月末同3号高炉（改修工事中であったもの）が第2次火入をおこなった。

住友金属小倉2号高炉はリプレースのため内容積1,350m<sup>3</sup>で工事中である

が（44年10月完成予定），完成すれば旧 2 号高炉（内容積850m<sup>3</sup>）は廃棄される，

八幡製鉄東田 5 号高炉は君津 2 号高炉のリプレイス用の 1 基として43年10月吹卸し廃棄となったが，さらに八幡製鉄所では平炉 9 基を43年 4 月から休止した．八幡製鉄・富士製鉄合併問題の提起は下請関係その他の九州地区への影響は大きくその成行が注目され，富士製鉄所の建設，八幡製鉄所および住友金属小倉製鉄所の合理化10カ年計画など九州経済浮揚の原動力として期待がかけられた．

42年初め鉄鋼相場が急騰して以来鋼材価格は下降傾向にあったが，43年 4 月を底に上下し上昇気配にあったとはいえ，不況感を脱し得なかった．44年 3 月ヨーロッパから引合が活発化したので市況は急に回復に向った．

43年九州鉄鋼の原料は鉄鉱石消費9,059千とん，輸入8,868千とん，原料炭消費6,450千とん，輸入5,008千とん，くず鉄消費2,795千とん，輸入量210千とんである．

焼結鉱およびペレット使用量は前年に比べ著増したが高炉 2 社の重油消費は 5.5%増である．

「鉄鋼」関係製品の発送（47.4万とん）は銑鉄（11.2万とん），鋼塊（7.3万とん），普通鋼々材（26.4万とん），その他の鋼材（2.3万とん）に分けられる．

これら 4 品目を合わせその仕向先をみると九州向け（11.2万とん）が23.7%であるが，近畿向け（12.1万とん）が25.6%に当って首位，中部向け（8.7万とん）が18.4%，関東向け（4.3万とん）は9.1%に当りこれらで鉄鋼発送の 97.4%と大半を占めている．

ここで43年度九州鉄鋼生産量をあげておこう（表 6-3）．

なお九州における鉄鋼の生産は九州内の需要のほか上記のように国鉄によって本土などへ輸送されているが，輸出されたものをみなければならない．

43年九州の鉄鋼輸出は 1,877 千とんで前年（1,562千とん）に比べ20.2%増（全国は39.1%増）であるが，このような伸びはアメリカのスト備蓄輸入，ヨーロッパ景気上昇による鉄鋼需要の増大，わが国の輸出努力などに因るもの

である。全品目ともふえているが主力製品である厚中板，冷延薄板，鋼管などの伸びが大きく輸出先ではアメリカが約半ばを占め中国，東南アジア，ヨーロッパ，中南米向けなどいずれも伸びている。

表 6—3 九州鉄鋼生産量  
(昭43年度) (単位：1,000とん)

品 目	生 産 量	対前年比
銑 鉄	8,389	103%
フェロアロイ	86	122
粗 鋼	10,523	95
鑄 鋼(打放)	37	106
鑄 鋼(鑄放)	72	91
鋼 半 成 品	9,073	98
普通鋼熱間圧 延 鋼 材 }	6,980	100
特 殊 鋼	651	135
鋼 管	208	120
鑄 鉄 管	4	104
冷間仕上鋼材 (普 通 鋼) }	2,079	100.1
メ ッ キ 鋼 材 (普 通 鋼) }	972	118.1
軽 量 形 鋼	51	105
鉄鋼加工成品	78	107.8

資 料：福岡通産局編「九州通商産業年報」

昭44年版

表6-4 九州輸出入貿易額

(昭43年度)

(単位：1,000とん)

輸 出					輸 入				
品 目	輸出額	構成比	前年比 (%)		品 目	輸入額	構成比	前年比 (%)	
総 数	644,543	100.0	110.3		総 数	885,873	100.0	98.3	
食 料 品	33,782	5.2	109.6		食 料 品	165,591	18.7	103.8	
魚 介 類	15,880	2.5	103.1		とうもろこし	36,194	4.1	115.6	
温州みかん	6,522	1.0	92.9		小 麦	25,014	2.8	81.4	
そ の 他	11,380	1.8	135.8		砂 糖	18,702	2.1	119.7	
繊維・同製品	11,648	1.8	137.5		米	4,172	0.5	48.7	
化学製品	45,317	7.0	94.7		金属 鉍・くず	228,825	25.8	88.6	
化学肥料	21,788	3.4	87.4		鉄 鉍 石	145,975	16.5	99.8	
そ の 他	23,529	3.7	102.7		鉄 鋼 くず	6,993	0.8	16.2	
非金属 鉍物製品	31,998	5.0	97.3		非鉄金属 鉍	75,120	8.5	110.4	
セメント	21,872	3.4	87.1		原 材 料	186,041	21.0	102.6	
陶 磁 器	924	0.1	80.2		大 豆	25,761	2.9	87.1	
そ の 他	9,202	1.4	139.2		生 ゴ ム	11,568	1.3	86.2	
金属および・同製品	274,288	42.6	124.8		木 材	101,127	11.4	134.9	
鉄 鋼	248,822	38.6	119.3		り ん 鉍 石	14,779	1.7	144.8	
そ の 他	25,466	4.0	229.3		塩	6,419	0.7	143.7	
機械・機器	163,548	25.4	96.6		鉍物性燃料	164,492	18.6	112.3	
自 動 車	8	0.0	66.7		石 炭	101,928	11.5	108.9	
船 舶	126,069	19.6	86.7		石 油	47,979	5.4	96.1	
そ の 他	37,471	5.8	157.3		化学製品	10,765	1.2	89.3	
雑 品	83,962	13.0	111.7		カリ肥料	3,323	0.4	41.5	
木 材	7,398	1.1	97.2		原料別製品	115,453	13.0	…	
合 板	4,475	0.7	123.9		鉄 鋼	42,410	4.9	47.4	
そ の 他	72,089	11.2	112.7		非鉄金属	70,210	7.9	…	
					機 械 類	12,298	1.4	87.4	
					一 般 機 械	8,671	1.0	…	
					そ の 他	1,808	0.2	4.5	

資 料：九州通商産業年報、昭44年版

九州の輸出では鉄鋼、船舶について、セメント、化学肥料などが主なもので  
輸入では鉄鉍石および鉄鋼、石炭、非鉄金属鉍および非鉄金属、木材、とうも  
ろこし、石油などが主要品である。



表 6—5 北九州鉄鋼輸出・輸入  
(昭43年度)

輸 出 入 港	輸 出		輸 入	
	数 量 (千とん)	価 額 (百万円)	数 量 (千とん)	価 額 (百万円)
門 司 港	1,935	88,340	838	15,065
若 松 港	5	243	9	202

(注) 門司税関「外国貿易月表」昭43年12月号による。

43年門司税関管内の鉄鋼貿易は輸出885億 8 千万円 (194 万とん) 輸入 152億 6 千万円 (84.7万とん) であるが、門司港輸出はアメリカ向けが 412.2億円 (103.3万 とん)、中国(93.2億円, 19.0万とん) がこれにつぐ。

表 6—6 九 州「鉱 産 品」発 送 と ん 数  
(昭43年度)

(単位: 1,000とん)

品 目	発送計	九州向 け	中国四 国向け	近畿向 け	中部向 け	関東向 け	東北向 け	北海道 向け
総 数	12,969	12,177	380	174	149	69	14	2
石 炭	8,286	8,184	94	5	1	0	—	—
無 煙 粉 炭	255	218	34	0	1	—	—	—
コークスコーライト	278	146	92	18	20	0	0	—
石 と 石 材	10	7	0	1	0	0	—	—
砂 利 と 砂	14	12	0	0	1	0	—	—
鉄 鉱 石	9	6	1	0	0	0	0	—
非 鉄 金 属 鉱	18	8	2	2	1	2	1	—
硫 化 鉱	12	7	3	0	0	1	—	0
り ん 鉱 石	—	—	—	—	—	—	—	—
け い 石 と け い 砂	7	4	0	0	0	0	0	—
石 灰 石	3,116	3,116	0	—	—	—	—	—
ド ロ マ イ ト	2	1	—	0	0	—	—	—
粘 土	4	2	1	0	0	0	—	—
白 土	33	12	9	3	5	2	—	0
そ の 他 の 鉱 石	314	241	31	13	17	9	0	0
銑 鉄	112	19	41	19	24	3	3	—
鋼 塊	73	0	0	73	0	0	0	—
普 通 鋼 鋼 材	264	87	38	25	68	35	8	0
そ の 他 の 鋼 材	23	5	8	3	4	3	0	0
非 鉄 金 属	8	3	2	0	0	0	0	0
金 属 く ず	106	81	16	2	0	4	—	1
そ の 他 の 鉱 産 品	16	9	0	2	1	2	0	0

福岡県調べ九州鉄鋼の43年輸出（794.16億円）のうち福岡（789.92億円）が大半を占め長崎（4.24億円）がこれにつぐ。税関統計に比べ差異があるのは、税関統計は輸出通関実績であり福岡県以外の産出分も含むことが考えられ、福岡県調べの輸出は通産省所管の県産品輸出実績であって輸出港が県外、県内であることは問わない。後者による福岡県「鋼材」輸出は737.7億円 でアメリカ向け（358.7億円）、中国（51.3億円）、フィリッピン（48.6億円）韓国（33.7億円）、台湾（29.4億円）、オーストラリア（22.1億円）、タイ（19.1億円）、ベネズエラ（11.3億円）、ソビエト連邦（10.4億円）などが主要仕向国である。長崎県産品のうち鉄鋼材輸出（4.2億円）の主要なものは圧延鋼板（3.0億円）で中国向け（2.7億円）が大半を占める。

大分県産品鉄鋼輸出額は 482.7万円で前年（8.7千とん、658.4万円）に比べ26.7%減を示している。

九州の鉄産品到着（1304.9万とん）は発送をやや上回っているが（0.6%）、福岡着が88.2% で大部分を占め、長崎（5.6%）、佐賀（3.6%）の順でこれら3県で九州到着の97.4%を占めている。

鉄産品のうち「石炭」（818.8万とん）が鉄産品の62.7% に当り首位、「石灰石」（337.8万とん）が25.9%でこれにつぎこの2品目で88.6% を占めている。

鉄産品の仕出地では「九州内から」の到着（1217.7万とん）が93.3%で大半を占め、「中国・四国から」が4.4%、「中部から」が0.9%、「近畿から」が0.8%である。

「非鉄金属」発送（8千とん）、到着（1.8万とん）とも多くはないが、九州では生産量もまた多くはない（表6-8）。

亜鉛板は三井金属、三池製煉所の圧延設備更新工事のため前年度は50%減を示したが、43年9月完成したので36%増を記録した。電線関係は工場の増設、新設計画が進められており、懸案の三井アルミニウム工業は44年2月から発電所建設に着手し45年末第1期工事完成し、アルミ地金年間37.500とん生産の予定である。

表 6—7 九州「鉱産品」の到着とん数

(昭43年度)

(単位：1,000とん)

品 目	九州到着計	九州内から	中国から	四国から	近畿から	中部から	関東から	東北から	北海道から
総 数	13,049	12,177	579	101	120	53	13	1	
石 炭	8,188	8,184	4	—	—	0	—	—	
無 煙 粉 炭	318	218	99	0	0	—	—	—	
コークス コーライト	152	146	2	2	1	0	—	—	
石 と 石 材	19	7	2	0	7	1	0	0	
砂 利 と 砂	28	12	9	0	4	1	0	0	
鉄 鉱 石	7	6	0	0	—	0	0	0	
非 鉄 金 属 鉱 石	21	8	3	4	3	2	0	—	
硫 化 鉱 石	8	7	1	—	0	0	—	—	
り ん 鉱 石	0	—	—	0	—	—	—	—	
け い 石 と け い 砂	39	4	19	1	13	0	0	—	
石 灰 石	3,378	3,116	262	—	—	—	—	—	
ド ロ マ イ ト	2	1	—	—	0	0	—	—	
粘 土	32	2	1	4	23	0	0	—	
白 土	28	12	9	0	2	1	2	—	
そ の 他 の 鉱 石	386	241	95	18	22	6	2	0	
銑 鉄 塊	39	19	—	15	2	1	0	0	
銅 塊	0	0	0	0	0	0	0	—	
普 通 鋼 鋼 材	184	87	40	28	5	21	0	0	
そ の 他 の 鋼 材	62	5	7	16	21	6	5	0	
非 鉄 金 属	18	3	3	3	5	2	1	—	
金 属 く ず	103	81	16	1	2	1	0	0	
そ の 他 の 鉱 産 品	25	9	0	2	6	6	0	0	

表 6—8 九州「非鉄金属」生産量

(昭43年度)

品 目	生 産 (とん)	対前年比
伸 銅 品	23,665	95%
亜 鉛 板	2,807	136
電 線 (裸線)	7,902	120
〃 (被覆線)	19,794	106

資 料：九州通商産業年報 昭4年版

車扱貨物調査の対象となっている品目のうち福岡通産局で生産を調査している上記以外の鉱産品目について43年生産量をあげると「硫化鉱」(6.4万とん)は前年比1.9%増であるが、国鉄輸送量(発送 1.2万とん、到着 8千とん)は多くなく九州内の移動が多い。

「コークス」生産（701.1万とん）に対し自家消費（406.7万とん，うち製鉄部門が404.3万とん），出荷（311.7万とん），在庫（26.2万とん）は括弧内にそれぞれその数量をあげたが，九州内における荷渡（119.7万とん）は鉄鋼部門（77.5万とん），化学工業（18.5万とん），窯業（8.5万とん），非鉄金属（13.3万とん），その他の製造業（4千とん），その他（1.3万とん）など多部門にわたっている．コークスコーライトの国鉄輸送は発送（27.8万とん）では九州内向け（52.5%），中国四国向け（33.1%）などが主なものである．到着（15.2万とん）は九州内の移動（14.6万とん）が大半である．

43年九州の「石材」生産（2625.0万とん）は碎石（1698.3万とん），割ぐり石（387.6万とん），間知石・割石（106.5万とん），切石（25.6万とん），陶石（16.2万とん），けいそう土（8万とん），ベンナイト（4.8万とん），酸性白土（2.9万とん），その他（374.9万とん）の順であるが，福岡（1000万とん），鹿児島（419.6万とん），長崎（411.2万とん），熊本（313.1万とん），佐賀，大分がそれぞれ210万とん台，宮崎（47.7万とん）の順で九州全域で前年よりも17%増である．

国鉄による「石と石材」の輸送は発送，到着とも1万とん台で量的には問題にならない．上記のように九州各県で産出されるので特殊なものは別として県内で需給がバランスするため遠距離輸送の必要は少ないのではあるまいか．

「鉄鉱」生産（1.641とん）は前年比75.7%増と着増しているが全国生産の0.2に過ぎない．国鉄の品目分類では，「砂鉄」（13.4万とん）を含んでいるが，これは前年比13.8%増で全国の12.4%に当り，九州の国鉄による鉄鉱輸送も1万とん未満でわずかである．

つぎに福岡通産局が算出している43年九州鉱工業生産指数をあげるが，これによって各産業部門別の動向を知ることができよう．

43年九州地域鉱工業生産指数（143.4%．40年基準）は全国のそれ（164.9%）に比べ低いが，それは鉱業（98.5%，全国105.4%）でも製造工業（148.4% 全国166.3%）でも低率であること，寄与率では機械（47.1%，全国56.2%），化学4.2%，全国8.3%），鉄鋼（1.0%，全国5.4%）で全国と差異がみられる．

ウェートは公益事業（947.5）に対し鉱工業（9052.5）の内訳は鉱業（905.9）製造工業（8146.6）の主なものは機械工業（1444.6），鉄鋼業（1052.9），食料品・たばこ（1641.8）など比重の大きいものである。

表 6—9 九州 鉱 工 業 生 産 指 数  
(昭43年度) (昭40年=100)

産 業 区 分	年度平均	対前年比	寄 与 率
産 業 総 合	142.0		
公 益 事 業	127.0		
鉱 工 業	143.4	112.2	100.0
鉱 業	98.5	100.9	0.5
石 炭	93.0	99.7	△ 0.2
金 属	92.4	96.3	△ 0.1
非 金 属	162.7	111.3	0.8
原油 天然 ガス	—	—	—
製 造 工 業	148.4	113.2	99.5
鉄 鋼	132.6	101.0	1.0
非 鉄 金 属	152.3	105.8	1.1
金 属 製 品	189.4	117.0	7.2
機 械	198.2	131.1	47.1
一 般 機 械	198.8	161.0	35.0
電 気 機 械	228.5	124.4	10.3
輸 送 機 械	175.9	102.8	1.8
精 密 機 械	—	—	—
窯業土石製品	141.1	107.7	5.1
化 学	136.8	105.3	4.2
石油石炭製品	131.1	103.0	0.5
ゴ ム 製 品	133.8	110.5	3.0
皮 革 製 品	380.8	285.0	1.0
パルプ・紙・紙加工品	132.9	108.5	2.1
織 維	149.5	114.4	7.6
木 材・木製品	117.4	103.2	1.3
食料品・たばこ	130.6	113.5	18.3

資 料：九州通商産業年報，昭44年版

## B. 化 学 工 業 品

43年化学工業品の発送（643.7万とん）は全体の25.8% で第2位にあるが、福岡（506.7万とん）が78.7%を占めて首位、大分（54.6万とん）、熊本（38.1万とん）、宮崎（26.5万とん）の順であり、到着（666.7万とん）は総体の26.5%に当り、福岡（401.4万とん）がその60.2%を占め、熊本（75.9万とん）、宮崎

表 7—1 九州「化学工業品」発送とん数

（昭43年度）

（単位：1,000とん）

品 目	九 州 発送計	九州内 向 け	中国 国向け	近畿 向 け	中部 向 け	関東 向 け	東北 向 け	北海道 向 け
総 数	6,437	5,536	436	207	126	106	17	6
硫 安	82	73	7	0	0	1	0	—
石 灰 窒 素	53	18	13	8	9	3	0	—
過 り ん 酸 石 灰	18	17	1	0	—	—	—	—
その他の無機質肥料	1,011	779	123	49	51	4	2	0
有 機 質 肥 料	112	99	9	2	0	0	0	—
塩	72	67	2	0	2	0	0	—
ソ ー ダ	104	82	10	5	4	2	0	—
農 薬	38	17	8	4	2	1	3	0
工 業 薬 品	160	43	35	38	15	26	1	0
工 業 製 剤	1	0	0	0	0	0	0	0
鉍 油	388	386	1	0	0	0	0	0
油 脂	7	3	1	1	0	0	0	—
陶 磁 器 類	12	2	1	1	0	4	0	—
かわら・れんが	52	17	10	7	2	12	0	0
板 ガ ラ ス	33	0	9	13	2	4	0	2
ガ ラ ス ビ ン	136	121	8	2	0	3	0	0
その他のガラス類	10	3	3	3	0	0	—	—
消 石 灰	43	38	1	2	0	0	—	—
そ の 他 の 石 灰	0	0	0	—	—	—	—	—
セ メ ン ト	2,235	2,080	146	1	3	2	0	1
コンクリート製品	60	44	5	0	3	1	4	0
その他の窯業製品	1,645	1,602	21	6	7	5	0	1
その他の化学工業品	153	31	15	55	18	30	1	0

（注）単位未満切捨

表 7—2 九州「化学工業品」到着とん数

(昭43年度)

(単位：1,000とん)

品 目	九 州 到着計	九州内 から	中国四 国から	近畿 から	中部 から	関東 から	東北 から	北海道 から
総 数	6,667	5,536	597	288	126	103	13	1
硫 安	80	73	6	0	0	0	—	—
石 灰 窒 素	18	18	—	0	0	0	—	—
過 り ん 酸 石 灰	24	17	6	0	0	—	—	—
その他の無機質肥料	1,068	779	226	34	17	9	1	0
有 機 質 肥 料	166	99	26	32	6	0	0	0
塩	77	67	8	0	0	0	0	—
ソ ー ダ	124	82	39	0	1	0	—	—
農 薬	58	17	15	9	3	9	2	0
工 業 薬 品	142	43	62	12	9	9	3	0
工 業 製 剤	9	0	1	3	1	2	0	—
鉍 油	447	386	23	20	3	11	2	—
油 脂	20	3	4	7	0	4	—	—
陶 磁 器 類	24	2	1	0	19	0	—	—
かわら・れんが	107	17	39	17	28	3	0	0
板 ガ ラ ス	38	0	0	27	—	10	0	—
ガ ラ ス ビ ン	185	121	24	25	6	6	0	0
その他のガラス類	8	3	0	2	1	1	0	—
消 石 灰	60	38	20	—	0	0	—	—
そ の 他 の 石 灰	2	0	0	—	—	1	—	—
セ メ ン ト	2,123	2,080	40	1	0	1	—	—
コンクリート製品	75	44	12	12	2	2	—	—
その他の窯業製品	1,638	1,602	11	4	14	3	0	0
その他の化学工業品	163	31	23	74	9	23	1	0

(注) 単位未満切捨

(51.9万とん)，鹿児島(45.5万とん)，佐賀(32.6万とん)，長崎(31.2万とん)，大分(27.9万とん)の順である。

化学工業品では化学肥料が発送(127.8万とん)，到着(135.9万とん)とも「その他の窯業製品」(発送164.5万とん，到着163.8万とん)について多いが九州における化学肥料の生産(145.2万とん)のうち複合肥料(74.3万とん)が半ばを超え(51.2%)，硫安，尿素，石灰窒素の順で，これらの主産地は福

岡である（表7-4）.

表7-3 九州「化学肥料」生産量  
(昭43年度)

品 目	生 産 (とん)	対前年比(%)
硝 酸 ア ン モ ニ ア (肥料用)	16,906	165
塩化アンモニウム( " )	140,573	212
硫酸アンモニウム	399,274	103
尿 素 (肥料用)	240,094	119
石 灰 窒 素	67,664	96
過 り ん 酸 石 灰	69,353	88
溶 成 り ん 肥	71,971	105
焼 成 り ん 肥	29,439	74
複 合 肥 料	743,297	115

九州ではアンモニア工業構造改善の一環として三菱化成（黒崎）が1千とんプラント建設に着工，45年3月末完成予定である。化学肥料の生産は石灰窒素を除き15～31%ふえているが，米の生産調整などにより国内

表7-4 九州「化学肥料」生産（県別）  
(昭43年度)

(単位：とん)

品 目	九州計	福 岡	熊 本	大 分	宮 崎	対前年比
硫 安	399,274	399,274	—	—	—	131%
石 灰 窒 素	67,664	67,664	—	—	—	96
尿 素	242,496	242,496	—	—	—	120
複 合 肥 料	743,297	497,935	154,730	31,393	59,239	115

資 料：九州通商産業年報，昭44年版

消費が減少したこと，発展途上国の自給力増大でこれらへの輸出が伸び悩んでおり，肥料生産の縮少が進められるであろう。なお上記の「その他の窯業製品」（福岡が発送で98.5%，到着で98.2%）が多いのはタイルではないかと思われる。

つぎに43年九州における化学肥料の工場出荷量をあげるが，これは肥料製造工場から消費地へ直送された数量と中継を経て消費地へ出荷された数量の合計であって，各県に入荷した数量である。相対的に福岡が多いが，窒素肥料，りん酸肥料では鹿児島が多く，化成肥料（高成分）と，りん酸肥料（よう成りん



表 7—5 九州「化学肥料」工場出荷量

(昭43年度)

(単位：とん)

品 目	全 国	九州計	福 岡	佐 賀	長 崎	熊 本	大 分	宮 崎	鹿児島
(窒 素 肥 料)									
硫酸アンモニア	413,962	61,500	9,903	2,431	4,231	15,138	5,795	5,198	18,804
石 灰 窒 素	170,038	22,702	6,002	975	1,946	3,299	2,744	3,383	4,353
尿 素	211,677	50,580	6,962	4,015	4,468	11,400	2,600	6,633	14,502
塩化アンモニア	62,235	9,574	788	309	653	372	2,035	3,556	1,861
(りん酸肥料)									
過りん酸石灰	247,776	26,738	2,388	376	1,352	5,409	3,552	5,211	8,450
よう成りん肥	473,850	61,153	5,200	2,719	4,817	15,269	3,997	14,889	14,262
(カリ肥料)									
塩 化 カ リ	161,388	17,984	5,183	400	808	2,974	1,458	2,949	4,212
硫 酸 カ リ	72,976	4,132	1,045	108	140	695	733	508	903
(化成肥料)									
低 成 分	1,536,542	223,238	50,251	15,231	26,776	41,712	28,072	24,502	36,694
高 成 分	2,349,428	391,839	73,438	54,257	32,968	91,261	37,271	35,766	66,878

資 料：45次農林省統計表

肥) では熊本が多いなど若干の差異がみられるが、硫酸カリを除けば、全国の1割以上2割に当る入荷量である。

43年九州におけるセメント生産は好況による設備投資と総需要の60%に当る官公需が、前年繰延分を含め増大したこともあって前年比7.4%増を示した。九州における設備増強は日本セメント佐伯工場5号窯(日産2,500とん、44年2月完成)のみであった。

43年輸出(102.6万とん)は全国の62.1%に当るが、その比は重低下傾向にあり、それは韓国、東南アジア諸国の自給力が高まりつつあるためである。一方国内需要は高いので市況は6,350円(とん当り)と堅調に推移した。生コンクリート部門が需要の37.1%、セメント製品(15.1%)、土木(10.5%)の3部門で過半を占め(62.7%)ている。

国内向けは大半九州内向けで到着の場合も同様である。

つぎに「板ガラス」の43年九州生産(389.3万箱)は前年比19.5%増(全国

表 7—6 九州「セメント」生産量  
(昭43年度)

県 別	生産(とん)	前年比(%)
九 州 計	14,419	107.4
福 岡	11,518	
熊 本	425	
大 分	2,474	

16.7%増)で、全国の17.0%に当るが、輸出(99.3万箱)では全国の45.4%を占め高率を示している。国内では北海道向けまで広く発送されているが、近畿、関東からも着荷しており、到着が発送を超えている。

「カ性ソーダ」,「ソーダ灰」の43年生産は前者(18.8万とん)が前年よりも7%増、福岡(10.6万とん)、宮崎(7.5万とん)、大分(6千とん)で産出され、ソーダ灰(24.8万とん)は18%

表 7—7 九州「セメント」需要部門別出荷とん数

(昭43年度)

(単位:1,000とん)

県 別	計	鉄 道	電 力	鋁 業	セメント 製品	生コン クリート	港 湾	道路 橋梁	土 木	建 築 (官公 需)	同(民 需)	自家 用	その他
九 州 計	5,075	11	16	0	768	1,879	77	144	533	154	359	43	1,085
福 岡	1,606	2	1	0	366	634	7	25	60	37	114	13	341
佐 賀	395	0	0	—	89	161	1	5	30	6	17	—	81
長 崎	646	7	1	—	42	194	31	24	108	25	71	0	138
熊 本	655	0	2	—	107	19	8	29	110	20	43	2	137
大 分	618	0	10	0	60	220	4	18	125	16	27	26	106
宮 島	457	0	0	—	53	165	6	23	50	23	31	—	101
鹿 児 島	696	1	1	0	48	308	17	17	47	23	53	—	177

(注)単位未満切捨

資 料 : 九州通商産業年報 昭44年版

増、その産出地は福岡である。国鉄による「ソーダ」の発送(10.4万とん)は8割が九州地場向け、残は各地域あて輸送され、また到着(12.4万とん)は九州地内からが多く、中国地方(3.9万とん)から来るものがこれについている。

この統計では「鋁油」には鋁油原油、燈油、軽油、重油、潤滑油(機械油)を含むことになっているが、九州の発送(38.8万とん)のうち福岡仕出(30.4万とん)が78.3%に当り大分(8.1万とん)がこれにつぐ。仕向先は九州内向け(38.6万とん)が大半であり、到着(44.7万とん)も福岡(25.9万とん)が

過半（58.0%）を占め熊本（8.7万とん）、佐賀（4.8万とん）がこれにつぐ。

鉱油は九州内から着荷するものが86.4%（38.6万とん）、中国、近畿からそれぞれ2万とんが着荷している。

43年九州における石油製品の販売量（1,184.7万kl）のうち重油（788.6万とん）が首位（66.6%）、揮発油（13.9%）がこれにつぐ。重油の製造工業向け

表7—8 九州「石油製品」販売量

（昭43年度）

（単位：1,000kl）

品 目	販売量計	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島
総 数	11,847.7	6,730.8	525.3	1,049.3	896.7	1,024.8	906.4	714.1
揮 発 油	1,641.2	621.8	113.6	153.1	226.6	169.0	150.3	206.3
ナ フ サ	164.8	83.4	5.7	18.7	11.8	21.1	9.0	14.9
ジェット燃料油	162.7	104.2	0.3	2.7	2.7	5.3	37.3	9.9
灯 油	753.1	367.5	53.8	64.5	88.8	80.8	44.6	52.8
軽 油	941.3	400.8	63.4	97.7	98.1	106.3	70.4	104.3
A 重 油	1,194.1	482.5	67.9	307.5	68.4	90.5	61.3	115.6
B 重 油	721.2	410.0	31.2	115.3	43.4	45.6	20.7	54.8
C 重 油	5,970.8	4,094.9	178.5	268.2	335.4	482.0	496.2	115.3
重 油 計	7,886.2	4,987.5	277.8	691.1	447.3	618.3	578.3	285.7
潤 滑 油	132.2	78.4	5.4	13.1	9.4	9.5	6.4	9.6
アスファルト	160.9	83.2	4.7	7.7	11.4	14.1	9.4	30.0
グ リ ー ス	2.8	1.9	0.08	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1
パラフィン	2.2	1.7	0.2	0.03	0.03	0.008	0.2	0.001

資 料：九州通商産業年報、昭和44年版、単位未満切捨

販売量（398.5万kl）は全重油販売量の50.5%に当るが、窯業土石製品製造業向け（150.0万kl）が首位（39.6%）鉄鋼業向け（22.2%）がこれにつぐが、品種ではC重油（366.6万kl）が92%と大半を占めている。

「消石灰」の発送（4.3万とん）は九州向け（3.8万とん）が88.6%を占め、仕出県では大分（2.1万とん）、熊本（1.2万とん）、福岡（9.1千とん）の順である。到着（6.0万とん）は宮崎着（1.5万とん）、鹿児島着（1.1万とん）福岡（9.2千とん）の順で、仕出地は九州から3.8万とん、中国地方から2.0万とんが着荷している。

表 7—9 九州地域重油の製造業向け販売量

(昭43年度)

(単位：1,000kℓ)

産 業 別	総 数	A 重 油	B 重 油	C 重 油
総 数	3,985.0	107.4	210.6	3,666.9
食 料 品 製 造 業	199.7	43.1	47.5	109.0
織 維 工 業	106.0	0.6	1.1	104.2
パルプ・紙・紙加工製造業	333.0	3.3	3.6	325.9
化 学 工 業	667.8	3.0	36.4	628.3
窯 業・土石製品製造業	1,580.6	33.8	57.3	1,489.3
鉄 鋼 業	885.6	6.9	18.1	860.6
非 鉄 金 属 製 造 業	88.6	4.1	12.0	72.4
そ の 他 の 製 造 業	123.4	12.2	34.2	76.9

資 料：九州通商産業年報、昭和44年版、単位未満切捨

表 7—10 九州電力燃料使用量

(昭43年度) (単位：1,000kℓ)

区 分	実 績	計画比	前年比
〔石 炭〕 (千トン)			
受 入	4,273.4	100.0	102.1
消 費	4,039.8	94.5	94.7
貯 炭	575.6	169.3	150.6
〔重 油〕	1,032.6		
受 入 (千ℓ)		158.7	118.5
消 費	1,028.7	518.7	118.1
貯 油	41.5	102.4	116.5

資 料：九州通商産業年報、昭和44年版

単位未満切捨

表 7—11 九州「石灰」生産量

(昭43年度)

品 目	生産量 (トン)	対前年比
生 石 灰	651,898	93%
消 石 灰	91,478	102

資 料：同 左

## C. 農 産 品

昭和43年九州作付面積は35年を基準として「のべ作付面積」では15.2%減、宮崎では25.3%と着減している。主要作目別では「麦」(47.1%減)が最も大きく減少し「田裏作」(38.6%減)、「いも」(21.1%減)、「米」(7.1%減)の

順で、「野菜」(6.4%増)、「飼肥」(36.3%増)、「果樹」(2.7倍増)は逆にふえている。1戸当り耕地面積は93アールで、鹿児島(81アール)から佐賀(113アール)までかなりの開きがあり、水田率も福岡(78.0)から鹿児島(35.2)まで、樹園地率(8.0~19.7)も相当な開差をもつ。農産品生産量も「米」は福岡、「麦」は熊本、福岡。「馬鈴しよ」は長崎、「甘しよ」鹿児島、宮崎、「たばこ」は熊本、鹿児島、「みかん」は佐賀、熊本、長崎、福岡、大分が多い。農業粗生産額の構成比は米(40.3%)、野菜(9.7%)、工芸作物(8.2%)、果樹(7.0%)、鶏卵(6.0%)などの順である。みかん栽培面積(64.6千ヘク

表8—1 九州作目別作付面積の変化  
(昭43年度) (昭35年=100)

県 別	のべ作付面積	うち田作	米	麦	いも	野菜	果樹	飼肥
九州計	84.8	61.4	92.9	52.9	78.9	106.4	275.9	136.3
福岡	80.3	53.3	94.3	54.2	50.7	92.7	216.6	124.3
佐賀	89.0	57.4	97.6	54.6	52.1	164.7	274.1	154.4
長崎	86.7	64.8	95.6	50.2	73.9	138.9	347.5	206.5
熊本	85.4	63.0	96.3	51.4	56.8	115.4	360.3	89.8
大分	84.1	64.8	96.4	54.7	42.2	98.7	266.6	162.5
宮崎	74.7	66.2	91.5	33.5	79.8	120.4	321.4	206.6
鹿児島	83.9	75.1	84.4	59.9	94.2	117.0	199.2	142.1

表8—2 九州農家1戸当り耕地面積  
(昭43年度) (単位：アール)

県 別	1戸当り面積	水田率	樹園地率
九州計	93	51.5	13.0
福岡	86	78.0	12.3
佐賀	113	71.3	19.1
長崎	93.4	40.6	19.7
熊本	106	55.7	16.9
大分	84	62.8	16.4
宮崎	103	50.7	9.4
鹿児島	81	35.2	8.0

表 8—3 九州みかん栽培面積・生産量

(昭43年度) (単位: 千ha, 千とん)

地 域 別	栽 培 面 積	うち未成園	未成園の割合	生 産 量
全 国 (A)	150.9	66.9	44	2,329.0
九 州 (B)	64.6	37.6	58	746.4
B/A	43	56	—	32

表 8—4 九州農業粗生産額構成比

(昭43年度)

作 目	構成比	作 目	構成比
(耕 種)		(養 蚕)	1.4
米	40.3	(畜 産)	
麦	3.9	牛 乳	2.5
雑 穀・豆	0.7	鶏 卵	6.0
い も	3.9	肉 豚	4.0
野 菜	9.7	そ の 他	10.1
果 樹	7.0	小 計	22.6
花 き	0.4		
工 芸 作 物	8.2		
種 苗・苗木	0.6	計	98.9
小 計	74.9	加工農産品	1.1

タール)は全国の43%であるが,新興産地が多いため未成園は全国の56%に当り,九州内では58%を占め生産量(746.4千とん)は全国の32%である。

ここで主要農産物の商品率をあげておこう。九州の対全国比で20品目のうち,きゅうり,トマト,みかん,生乳,鶏卵の5品目は全国より高く,あとの15品目は低率であるが,それは穀類において顕著である。

43年九州「農産品」の発送(197.4万とん)は到着(176.1万とん)を上回っているが,「配合飼料」(発送43.3万とん,到着47.0万とん)が首位,発送では福岡(33.1万とん)が76.3%を占め熊本(4.6万とん),佐賀(3.6万とん)大分(1.2万とん)の順,仕向先は九州内向け(37.2万とん),中国地方向け(4.7万とん)の順,到着では鹿児島着(16.3万とん)が首位,宮崎(9.5万とん),福岡(6.6万とん),熊本(5.0万とん),佐賀,大分がそれぞれ3.7万とん,長崎(1.9万とん)の順で,その仕出地は九州内から(37.2万とん)が79.0%を占め,中国地方から(4.7万とん),近畿から(3.5万とん),中部関東からそれぞれ5千とんが着荷し,四国から(3.3千とん)も到着している。これに対し「飼料」は国鉄では牧草,穀物のぬか,乾さなぎ,ふすまをこれに

表8—5 飼肥料作物収獲量  
(昭43年度)

区	分	全 国 (千とん)	福 岡	佐 賀	長 崎	熊 本	大 分	宮 崎	鹿 児 島
(れ ん げ)									
肥	料	1,710	61	29	18	73	23	108	325
飼	料	1,492	45	57	25	72	35	134	133
青刈とうもろこし		3,241	7	13	11	84	28	74	22
(牧 草)									
肥	料	204	—	—	0	—	—	—	0
飼	料	13,193	66	136	28	248	65	356	210
ま め 科 牧 草		1,214	3	4	1	6	5	5	14
い ね 科 牧 草		3,640	50	89	21	152	25	322	97
ま め 科 とい ね } 科 の ま ぜ ま き }		8,544	13	41	4	89	35	27	100
青刈 え ん 麦		812	7	24	37	93	13	126	136
青刈 ら い 麦		257	—	—	—	—	—	—	—
青刈 その他の麦		40	—	—	—	—	—	—	—
家 畜 用 ビ ー ト		175	—	—	—	—	—	—	—
(青刈 だ い ず)									
肥	料	22	—	0	—	11	0	0	5
飼	料	28	—	1	—	1	1	2	4
飼 料 用 か ぶ		256	—	—	—	7	4	—	—

表8—6 農産物商品化率 (1戸当り平均)  
(昭43年度)

(単位：パーセント)

品 名	全 国	九 州	品 名	全 国	九 州
水 稻	74.2	70.9	な す	68.3	60.6
陸 稻	72.8	68.9	ト マ ト	94.1	94.2
ビール大麦	86.3	64.5	ヤ ャ ベ ツ	88.1	79.9
6 条 大 麦	54.4	—	玉 ね ぎ	89.4	72.2
裸 麦	71.2	47.8	大 根	67.8	58.4
小 麦	80.8	76.6	り ん ご	92.9	—
だ い ず	40.4	31.0	み か ん	92.7	94.5
甘 し よ	75.2	69.7	な し	97.4	95.1
馬 鈴 し よ	75.8	55.0	生 乳	97.4	98.2
き ゆ う り	84.7	86.2	鶏 卵	90.8	91.4

資 料：45次農林省統計表

表 8—7 九州「農産品」発送とん数

(昭43年度)

(単位：1,000とん)

品 目	九州 発送計	九州内 向	中国 向	四国 向	近畿 向け	中部 向け	関東 向け	東北 向け	北海 道 向け
総 数	1,974	1,264	160	183	64	259	22	20	
米	441	335	32	70	0	1	0	0	
麦 類	317	259	16	33	6	1	0	0	
大豆	65	60	4	0	0	0	—	—	
生 甘 し よ	13	10	1	0	0	0	0	0	
生 馬 鈴 し よ	28	4	2	12	5	3	0	0	
生 野 菜	33	5	0	10	3	8	0	4	
て ん 菜	—	—	—	—	—	—	—	—	
つ け 物 類	4	0	0	1	0	1	0	0	
り ん ご	0	0	—	—	0	—	—	—	
み か ん	246	0	3	20	16	188	9	6	
夏 み か ん	21	—	0	1	0	17	0	2	
その他の果物	31	1	0	7	3	9	3	3	
葉 た ば こ	80	48	9	4	5	8	2	0	
わ ら 工 品	36	8	5	4	10	4	2	0	
飼 料	127	97	24	1	0	2	0	0	
配 合 飼 料	433	372	49	3	3	2	0	0	
その他の農産品	93	59	8	9	4	9	1	0	

含めているが発送（12.7万とん）は福岡発（8.9万とん），佐賀（1.7万とん）熊本（1.3万とん）が多く仕向先は九州内向け（9.7万とん），中国地方向け（2.4万とん）が大部分である。到着（13.8万とん）は宮崎着（2.7万とん）が首位，福岡（2.3万とん），鹿児島（2.1万とん），熊本（2.0万とん），熊本（2.0万とん），大分（1.8万とん），佐賀（1.5万とん），長崎（1.2万とん）の順でその仕出地は九州から（9.7万とん），近畿から（2.0万とん），中国地方から（1.3万とん），中部から（3.6千とん）来るものが多い。

「米」の発送（44.1万とん）は佐賀発（13.7万とん）が31.2%を占めて首位熊本（9.6万とん），福岡（6.2万とん），大分（5.6万とん），宮崎（4.9万とん），鹿児島（3.6万とん）の順であるが，長崎（3.2千とん）は最も少ない。その仕向先は九州内（32.5万とん）が76.2%を占め近畿向け（7.0万とん），



表8—8 九州「農産品」到着とん数

(昭43年度)

(単位：1,000とん)

品 目	九州 到着計	九州内 から	中国四 国から	近畿から	中部から	関東から	東北から	北海道 から
総 数	1,761	1,264	197	109	70	34	72	13
米	347	335	4	1	5	0	0	0
麦 類	316	259	44	3	2	5	—	0
大豆	83	60	9	5	3	5	0	0
生 甘 し よ	10	10	0	—	0	0	—	—
生 馬 鈴 し よ	13	4	0	0	4	0	0	4
生 野 菜	35	5	4	9	4	5	0	5
て ん 菜	—	—	—	—	—	—	—	—
つ け 物 類	6	0	2	1	0	0	—	0
り ん ご	96	0	0	0	30	—	64	—
み か ん	0	0	0	—	—	0	—	—
夏 み か ん	—	—	—	—	—	—	—	—
その他の果物	31	1	26	0	3	—	0	0
葉 た ば こ	68	48	5	4	2	3	4	—
わ ら 工 品	8	8	0	—	0	0	—	—
飼 料	138	97	15	20	3	1	0	0
配 合 飼 料	470	372	51	35	5	5	0	0
その他の農産品	132	59	33	27	3	7	0	0

(注) 単位未満切捨

表8—9 九州「農産品」生産量

(昭43年度)

(単位：とん)

県 別	米	麦 類	甘 し よ	馬鈴しよ	大 豆	た ば こ	み かん	夏みかん
九 州 計	1,668,700	535,200	2,155,500	348,500	12,130	46,421	745,200	50,550
福 岡	420,400	107,300	19,900	37,500	1,230	1,060	111,200	11,800
佐 賀	268,900	64,700	22,800	29,400	1,100	751	158,700	3,930
長 崎	116,800	67,200	324,200	148,500	1,500	4,780	118,000	5,710
熊 本	362,900	107,900	178,900	32,200	3,530	13,800	136,800	11,500
大 分	214,100	76,500	40,700	15,500	2,140	6,110	100,600	11,100
宮 崎	184,000	36,800	460,000	21,500	1,190	7,720	61,200	960
鹿 児 島	201,600	74,800	1,109,000	63,900	1,440	12,200	58,700	5,550
全 国	14,223,000	2,033,000	3,594,000	4,056,000	167,500	193,400	2,352,000	250,800
(対全国比)	11.7%	26.3	60.0	8.6	7.2	24.0	31.7	20.1

資 料：農林省統計表

中国地方向け（2.9万とん）が主なものである。到着（34.7万とん）は発送よりも9.4万とん少ないが、福岡着（16.6万とん）、長崎（9.7万とん）、鹿児島（4.3万とん）、大分（1.5万とん）、宮崎（1.3万とん）、熊本（7.2千とん）佐賀（3.5千とん）の順である。上記のように九州は米の需給をこの国鉄輸送量からみる限り9.4万とん発送が上回っているが、県別で発送の方が多いのは佐賀（ $\oplus$ 13.3万とん）、熊本（ $\oplus$ 8.8万とん）、大分（ $\oplus$ 4.0万とん）、宮崎（ $\oplus$ 3.5万とん）で、逆にマイナスの県は福岡（ $\ominus$ 10.3万とん）、長崎（ $\ominus$ 9.3万とん）、鹿児島（ $\ominus$ 7.3千とん）である。到着の仕出地は九州内から（33.5万とん）が大半（96.8%）を占め中部から（5.4千とん）、中国地方から（3.6千とん）、近畿から（1.1千とん）着荷している。九州「米」の生産（166.8万とん）は全国の11.7%に当るが、福岡（42.0万とん）がその25.2%、熊本（36.2万とん）が21.7%、佐賀（26.8万とん）は16.1%この3県で九州生産の63%に当る。

「麦」の生産（53.5万とん）は全国の26.3%と高率を示し福岡、熊本がいずれも10.7万とんを生産、大分・鹿児島は7万とん台、長崎・佐賀は6万とん台である。国鉄の麦発送（31.7万とん）は福岡発（22.4万とん）、大分（2.8万とん）、佐賀（1.8万とん）、熊本（1.7万とん）、長崎（1.5万とん）、鹿児島（8.2千とん）、宮崎（4.4千とん）の順で、仕向先は九州内向け（25.9万とん）、近畿（3.3万とん）、中国地方向け（1.5万とん）、中部（6.6千とん）関東（1.5千とん）の順である。到着（31.6万とん）は福岡着（15.5万とん）が首位、熊本（5.8万とん）、佐賀（4.0万とん）、宮崎・鹿児島（それぞれ2.5万とん）、大分（9.3千とん）の順でその仕出地は九州内から（25.9万とん）が82.0%を占めて断然多く、中国地方から（2.6万とん）、四国から（1.7万とん）、関東から（5.6千とん）、近畿（3.4千とん）、中部（2.9千とん）の順である。

「配合飼料」発送（43.3万とん）は福岡発送（33.1万とん）、熊本（4.6万とん）、佐賀（3.6万とん）、大分（1.2万とん）などの順でその仕向先は九州内向け（37.2万とん）、中国地方向け（4.7万とん）が多く、到着（47.0万と

ん)は鹿児島着(16.3万とん), 宮崎(9.5万とん), 福岡(6.6万とん), 熊本(5.0万とん), 佐賀・大分(それぞれ3.7万とん), 長崎(1.9万とん)の順でその仕出地は九州内から(37.2万とん) が大半を占め中国地方から(4.7万とん), 近畿地方から(3.5万とん) がこれにつぐ。「飼料」の発送(12.7万とん)は福岡発送(8.9万とん)について佐賀(1.7万とん), 熊本(1.3万とん), 大分(3.0千とん)の順で仕向地は九州内向け(9.7万とん), 中国地方向け(2.4万とん)が多く, 到着(13.8万とん)は宮崎着(2.7万とん), 福岡(2.3万とん), 鹿児島(2.1万とん), 熊本(2.0万とん), 大分(1.8万とん), 佐賀(1.5万とん), 長崎(1.2万とん)の順でその仕出地は九州内から(9.7万とん), 近畿から(2.0万とん), 中国地方から(1.3万とん) が着荷している。

「みかん」の発送(24.6万とん)は佐賀発送(9.0万とん)が首位, 大分(4.3万とん), 長崎(3.6万とん), 熊本(3.4万とん), 福岡(3.0万とん)が多くその仕向先は関東向け(18.8万とん), 近畿向け(2.0万とん), 中部向け(1.6万とん), 東北(9.2千とん), 北海道向け(6.9千とん)の順である。到着は九州全域でわずか469とんである。

「生野菜」は発送(3.3万とん)のうち宮崎発送(1.3万とん)が最も多く佐賀(5.1千とん), 鹿児島(4.7千とん), 熊本・福岡(それぞれ3千とん), 長崎(2.2千とん)の順で仕向先は近畿(1.0万とん), 関東(8.3千とん), 九州内向け(5.4千とん), 北海道(4.6千とん), 中部向け(3.5千とん)の順である。到着(3.5万とん)は福岡着(1.3万とん)が最も多く鹿児島(8.8千とん), 宮崎(5.0千とん), 熊本(3.4千とん), 長崎・大分(それぞれ2千とん)の順でその仕出地は近畿から(9.6千とん), 北海道・関東・九州内から(それぞれ5千とん), 中部から(4.3千とん), 四国から(3.4千とん), 中国地方から(1.2千とん) が着荷している。

## D. 林 産 品

43年九州林野面積（269.4万ヘクタール）は全国の 10.5%に当るが、熊本・大分・宮崎・鹿児島は九州北西各 3 県のそれぞれの倍以上である。素材生産では針葉樹が広葉樹よりも多いが、宮崎・鹿児島は逆である。用途別生産では「製材用」, 「パルプ用」, 「木材チップ用」が多く、素材入荷量からみると全国で

表 9—1 九州林野面積  
(昭43年度) (単位: 千ヘクタール)

県 別	計	森 林	森林でない 原 野
全 国	25,557	24,486	1,071
九 州 計	2,694	2,602	92
福 岡	236	232	3
佐 賀	116	111	4
長 崎	246	241	4
熊 本	471	431	39
大 分	454	436	18
宮 崎	584	570	13
鹿 児 島	585	577	8

表 9—2 九州「素材」生産量  
(昭43年度) (単位: 1000m<sup>3</sup>)

県 別	計	針葉樹	広葉樹
全 国	48,169	30,119	18,050
九 州 計	6,585	4,165	2,420
福 岡	629	523	106
佐 賀	275	211	64
長 崎	297	202	95
熊 本	1,185	853	332
大 分	957	793	164
宮 崎	1,750	872	878
鹿 児 島	1,492	711	781

資 料 : 45次農林省統計表

表 9—3 素 材 用 途 別 生 産 量

(昭43年度) (単位: 1,000m<sup>3</sup>)

種 別	全 国	九州計	福 岡	佐 賀	長 崎	熊 本	大 分	宮 崎	鹿児島
計	48,169	6,585	629	275	297	1,185	957	1,750	1,492
製 材 用	31,301	3,938	404	184	186	769	715	963	717
パ ル プ 用	7,401	1,432	61	16	48	209	135	477	486
合 単 板 用	751	3	—	—	—	3	—	0	0
坑 木 用	1,027	332	55	28	31	109	34	12	63
電 柱 用	386	100	50	2	1	18	6	22	1
く い 丸 太 用	205	13	1	3	1	4	1	1	2
足 場 丸 太 用	277	30	7	2	4	11	3	2	1
織 維 板 用	199	1	—	—	—	0	—	0	1
木 材 チ ッ プ 用	5,570	652	37	37	25	48	44	263	198
そ の 他 用	1,052	84	14	3	1	14	19	10	23

は「自県材」が「外材」を上回っているが、福岡・佐賀は「外材」が多くその構成比は県により差異がある。

表9—4 九州「素材」交 流 量

(昭43年度)

(単位：1,000m³)

県 別	総 入 荷 量		自 県 材		他 県 材		外 材	
	実 数	割 合	実 数	割 合	実 数	割 合	実 数	割 合
全 国	78,886	100.0	38,855	49	7,195	9	32,836	42
九 州 計	8,718	100.0	4,636	53.2	1,282	14.7	2,800	32.1
福 岡	1,984	100.0	441	22	295	15	1,248	63
佐 賀	529	100.0	203	38	66	12	260	50
長 崎	448	100.0	230	51	115	26	103	23
熊 本	1,343	100.0	847	63	224	17	272	20
大 分	1,395	100.0	709	50	231	17	455	33
宮 崎	1,541	100.0	1,186	77	201	13	154	10
鹿 児 島	1,478	100.0	1,020	69	150	10	308	21

資 料：農林省統計表

表9—5 九州「木炭」生産  
(昭43年度) (単位：とん)

県 別	生 産
全 国 (A)	360,912
九 州 計 (B)	42,122
福 岡	3,149
佐 賀	2,764
長 崎	7,662
熊 本	4,686
大 分	4,144
宮 崎	5,923
鹿 児 島	13,794
B/A	11.7%

林産品の国鉄による発送量(65.5万とん)は宮崎(24.5万とん)が首位、熊本(15.2万とん)、鹿児島(8.3万とん)、大分(7.9万とん)、福岡(5.8万とん)、長崎(2.5万とん)、佐賀(1.1万とん)相当開きがあるが、発送量の多い品目は「パルプ用材」(22.7万とん)、「不工製材」(9.5万とん)、「チップ」(8.7万とん)、「坑木」(6.5万とん)などである。仕向先は九州内向け(42.0万とん)、中国地方向け)8.1万とん)、近畿(5.5万とん)、中部(4.9万とん)、関東(3.0万とん)

の順であるが、主要品の「パルプ用材」はその大半が九州向け(20.0万とん)であり、「不工製材」は九州向け(3.0万とん)、近畿(2.7万とん)、関東向

表 9—6 九 州「林 産 品」 発 送 と ン 数

(昭43年度)

(単位：1,000とん)

品目		九州発 送計	九州内 向け	中国 向け	四 国 向け	近 畿 向け	中部 向け	関東 向け	東北 向け	北海道 向け
総	数	655	420	89	55	49	30	6	2	
原	木	23	8	6	2	5	0	—	0	
不	工 製 材	95	30	9	27	9	18	0	0	
加	工 製 材	1	0	0	0	0	0	—	—	
パ	ル プ 用 材	227	200	26	0	0	0	0	—	
坑	木	65	54	10	0	—	—	0	—	
そ	の 他 の 用 材	17	7	2	2	4	1	0	—	
そ	の 他 の 木 材	20	9	7	0	0	1	0	0	
チ	ッ プ	87	85	2	—	—	—	—	—	
	薪	0	0	—	0	0	—	—	—	
木	炭	22	2	6	6	5	1	—	—	
木	製 品 と 竹 製 品	7	0	1	5	0	0	0	0	
そ	の 他 の 林 産 品	86	21	16	25	23	7	5	2	

(注) 単位未満切捨

表 9—7 九 州「林 産 品」 到 着 と ン 数

(昭43年度)

(単位：1,000とん)

品目		九州到 着計	九州内 から	中国 国から	四 近畿 ら	中部 から	関東 から	東北 から	北海道 から
総数		592	420	111	6	29	3	9	12
原木		16	8	4	1	1	0	0	0
不工製材		37	30	2	0	0	0	0	2
加工製材		0	0	0	—	0	0	0	0
パルプ用材		205	200	5	—	0	—	0	—
坑木		66	54	11	—	—	—	—	—
その他の用材		8	7	0	0	0	0	0	0
その他の木材		73	9	16	1	25	2	7	9
チップ		88	85	2	—	0	—	—	0
薪		0	0	0	0	0	—	—	—
木炭		7	2	4	—	0	0	—	—
木製品と竹製品		1	0	0	0	0	0	0	0
その他の林産品		86	21	63	0	0	0	0	0

(注) 単位未満切捨

け（1.8万とん）の順，「チップ」はほとんど九州向け，「坑木」も同様である。「木炭」は近畿（6.0千とん），中部（5.3千とん），中国・四国（それぞれ3千とん），関東向け（1.4とん）の順である。

到着（59.2万とん）は熊本着（15.3万とん），福岡（13.5万とん），大分（11.9万とん），鹿児島（7.0万とん），宮崎（5.1万とん），佐賀・長崎（各々3万とん）の順であるが，「パルプ用材」は熊本到着（11.0万とん），大分宮崎，鹿児島着（それぞれ3万とん）の順である。「チップ」（8.8万とん）は大分着（6.0万とん），熊本着（1.9万とん）が主なもの，「その他の木材」（7.3万とん）は福岡着（3.8万とん），鹿児島（8.2千とん），熊本（7.3千とん），宮崎・佐賀（それぞれ6千とん），長崎（3千とん），大分（2.6千とん）の順である。「坑木」（6.6万とん）は福岡着（5.3万とん），佐賀（8.5千とん）で占め「不工製材」（3.7万とん）は福岡着（1.8万とん），佐賀（8.2千とん），長崎（7.8千とん）の順である。

林産品の到着（59.2万とん）は九州内から（42.0万とん）が首位，中国地方から（10.8万とん），中部から（2.9万とん），北海道から（1.2万とん），東北から（9.8千とん）の順であるが主要品についてみると，「パルプ用材」，「チップ」，「坑木」，「不工製材」などはその大半が九州内からの到着である。「その他の用材」は中部から（2.5万とん），中国地方から（1.4万とん），北海道・九州から（それぞれ9千とん），東北から（7.9千とん）着荷している。

#### E. 畜産品

43年九州家畜の飼養頭数は乳用牛（13.0万頭）が全国（148.9万頭）の8.8%で熊本，宮崎，福岡，鹿児島，1戸当たり頭数は4.1頭（全国4.4頭）である。肉用牛（63.0万頭）は全国の38%と高く，1戸当たり頭数（1.8頭）も全国（1.6頭）よりも高い。豚（73.6万頭）は全国（553.5万頭）の13.3%で鹿児島・宮崎・長崎が多く，馬（3.4万頭）は全国（21.5万頭）の15.8%で鹿児島・宮崎・熊本・大分が多い。

表10—1 九州「家畜」飼育頭羽数  
(昭43年度)

県別	牛乳生産量 (とん)	乳用牛			役肉用牛		
		飼養戸数	頭数	1戸当り 頭数	戸数	頭数	1戸当り 頭数
全 国	4,015,938	336,700	1,489,000	4.4	1,027,000	1,666,000	1.6
九 州 計	329,278	32,190	130,700	4.1	344,100	630,300	1.8
福 岡	61,581	3,410	19,800	5.8	29,100	35,700	1.2
佐 賀	38,217	4,000	13,300	3.3	15,200	21,900	1.4
長 崎	34,383	4,500	13,800	3.1	42,300	67,600	1.6
熊 本	79,369	8,630	34,500	4.0	52,000	96,800	1.9
大 分	30,316	2,460	11,600	4.7	44,500	74,300	1.7
宮 崎	46,862	5,480	22,000	4.0	57,000	129,000	2.3
鹿 児 島	38,550	4,040	15,700	3.9	104,000	205,000	2.0
九 州/全 国	8.2%		8.8%			37.8%	

県別	馬	豚	にわとり (千羽)	ブロイラー (千羽)
	頭数	頭数	採卵用 す	飼養羽数
全 国	215,800	5,535,000	131,084	34,736
九 州 計	34,010	736,700	19,024	5,892
福 岡	1,250	103,000	5,974	1,691
佐 賀	320	41,000	1,616	662
長 崎	1,370	112,000	2,164	550
熊 本	4,600	92,900	2,392	830
大 分	3,410	52,800	1,948	595
宮 崎	8,160	113,000	1,675	750
鹿 児 島	14,900	222,000	3,255	814
九 州/全 国	15.8%	13.3%	14.5%	17.0%



表10—2 九州「畜産品」発送とん数

(昭43年度)

(単位：1,000とん)

品 目	九 州 発送計	九 州 内向け	中国 四国向け	近畿向け	中部向け	関東向け	東北向け	北海道 向 け
総 数	20	4	2	5	1	3	0	0
馬	0	0	0	0	0	0	0	0
牛	9	0	2	3	0	1	0	0
豚	0	—	0	0	0	0	0	—
乳と乳製品	5	2	0	0	0	0	0	—
鮮冷凍肉	0	0	0	—	0	0	—	0
その他の畜産品	3	1	0	0	0	0	0	0

表10—3 九州「畜産品」到着とん数

(昭43年度)

(単位：1,000とん)

品 目	九 州 到着計	九 州 内から	中国 四国から	近畿から	中部から	関東から	東北から	北海道 か ら
総 数	36	4	2	8	3	3	1	12
馬	8	0	0	0	0	0	0	7
牛	3	0	0	0	0	—	0	1
豚	0	—	—	0	0	0	—	—
乳と乳製品	20	2	1	7	2	3	0	2
鮮冷凍肉	1	0	0	0	—	0	—	0
その他の畜産品	2	1	0	0	0	0	0	1

(注) 単位未満切捨

国鉄による畜産品の発送（2.0万とん）は宮崎発送（7.1千とん）、鹿児島（3.8千とん）、福岡（3.7千とん）、熊本（1.9千とん）、大分（1.6千とん）の順で、品目では「牛」（9.5千とん）が多く宮崎（4.8千とん）、鹿児島（2.2千とん）、大分（1.2千とん）の順、「乳と乳製品」（5.4千とん）は宮崎（1.7千とん）、福岡（1.6千とん）発送が多い。畜産品の仕向先は近畿（5.5千とん）、九州内向け（4.8千とん）、関東向け（3.8千とん）、中部・中国・四国向け（それぞれ1千とん）の順である。「牛」は近畿向け（3.9千とん）、関東・四国（それぞれ1千とん）の順である。「乳と乳製品」は九州向け（2.5千とん）、関東（916とん）、近畿（892とん）、中部（715とん）の順である。

到着（3.6万とん）は福岡着（1.9万とん）が首位，そのうち「乳と乳製品」（1.4万とん），「馬」（3.1千とん）が主なもの，佐賀（5.0千とん）は「馬」（3.3千とん）を主とし，鹿児島（4.5千とん）は「乳と乳製品」（1.2千とん）など，熊本・大分・宮崎へはそれぞれ2千とんが到着しているが「乳と乳製品」，「牛」が多い．畜産品の仕出地は北海道から（1.2万とん）は主として「馬」（7.2千とん）が来ており近畿から（8.4千とん）は「乳と乳製品」（7.6千とん），九州から（4.8千とん）は「乳と乳製品」（2.5千とん），関東・中部から（それぞれ3千とん）も「乳と乳製品」が多く，中国地方から（2.1千とん）も同様に北海道から（1.4千とん）も「乳と乳製品」，「馬」が来ている．

#### F. 水 産 品

昭和43年わが国漁獲高（867万とん）はペルー（1,055.6万とん）について世界第2位，1人当たり1日魚消費量は日本（88グラム）で世界一（43～45年）である．

43年漁獲高は海面漁業（799.3万とん），浅海養殖業（52.2万とん），内水面漁業（10.3万とん），内水面養殖業（5.2万とん），計867.0万とん（前年比10.4%増）である．海面漁業は遠洋（283.0万とん），沖合（315.7万とん），沿岸（200.5万とん）の3漁業を含んでいるが，九州（124.5万とん）で全国の15.6%に当る．内水面養殖業が同じく15.4%を占めるが，その他は対全国比は極めて低い．海面漁業では長崎（57.2万とん）が九州の46.0%を占めその比重は大きい．

国鉄輸送の発送（52.4万とん）は長崎発（21.8万とん），福岡（17.5万とん）佐賀（11.2万とん）の順でこれらで発送の96.6%に占める．仕向先は近畿（16.6万とん），中部（11.0万とん），中国・関東向けがそれぞれ9万とん，九州内向け（3.2万とん）の順である．発送品のうち鮮冷凍魚（50.8万とん）が97.0%で圧倒的に多い．到着（13.2万とん）は福岡着（5.7万とん）が最も多く鹿児島（1.8万とん），熊本（1.7万とん），大分（1.3万とん），長崎（1.2万とん）

表11—1 九州「水産業」漁獲量  
(昭43年度)

県 別	海面漁業 (とん)	浅海養殖業		内水面漁業 (とん)	内水養殖業	
		真珠浜 揚 量	母 貝 販売量		食肉魚	観賞用
		(Kg)	(とん)		(とん)	(とん)
全 国 (千とん)	7,993	521		103	51	
九 州 計	1,245,576	28,149	1,009	4,657	2,722	16,754
太平洋南区	104,613					
大 分	32,618					
宮 崎	71,995			福 岡	1,490	1,063
東支那海区	1,110,051	28,149	1,009	佐 賀	156	191
福 岡	301,620		4	長 崎	9	24
佐 賀	59,673		173	熊 本	1,297	198
長 崎	572,797		668	大 分	302	281
熊 本	75,857		25	宮 崎	1,047	516
鹿児島	100,104		139	鹿児島	356	449
瀬戸内海区	30,912					
福 岡	12,049					
大 分	18,863					

資 料：45次農林省統計表

表11—2 九州「水産品」発送とん数  
(昭43年度)

(単位：1,000とん)

品 目	九 州 発送計	九 州 内向け	中国 四国向け	近畿向け	中部向け	関東向け	東北向け	北海道 向 け
総 数	524	32	111	166	110	94	6	2
鮮 冷 凍 魚	508	31	108	163	106	91	5	2
塩 乾 魚	8	0	1	1	3	1	0	0
その他の水産品	6	0	1	2	1	0	0	0

ん)の順である。その仕出地は九州・関東から(それぞれ3.2万とん), 近畿から(2.6万とん), 中国・東北から(ともに1.2万とん), 北海道から(1.1万とん)が着荷しているが鮮冷凍魚(11.9万とん)が到着量の89.6%を占めている。

表11—3 九州「水産品」到着とん数

(昭43年度)

(単位：1,000とん)

品 目	九 州 到着計	九 州 内から	中国 四国から	近畿から	中部から	関東から	東北から	北海道 から
総 数	132	32	12	26	3	32	12	11
鮮 冷 凍 魚	119	31	10	24	3	30	11	6
塩 乾 魚	6	0	0	0	0	1	0	2
その他の水産品	7	0	1	1	0	0	0	0

(注) 単位未満切捨

## G. 織 維 工 業 品

43年九州「繊維工業品」発送(64.5万とん)は到着(52.2万とん)を上回っているが、福岡(発送では12.4%到着では60.7%)、熊本(発送37.5%、到着14.0%)宮崎(発送26.7%、到着7.5%)、鹿児島(発送13.7%、到着4.8%)佐賀(発送3.3%、到着7.6%)などそれぞれ発送と到着とでは九州における比重を異にするが、発送で宮崎は「化学繊維糸と織物」、「パルプ」が同県発送の65.7%を占め、熊本では「新聞巻取紙」と「その他の紙」で82.1%、鹿児島は「パルプ」が74.8%、福岡は「加工紙と紙製品」が52.9%を占める。到着で福岡は「新聞巻取紙」と「その他の紙」が74.5%、熊本では「パルプ」が58.7%佐賀は「その他の紙」と「加工紙と紙製品」が80.3%、宮崎は「パルプ」と「加工紙と紙製品」が61.3%に当るなど主要生産品の比重が違う。

発送の仕向先では九州地場向けが多い(34.7%)が、近畿(21.2%)、中部(18.9%)、関東(13.2%)などがこれにつぐ。「その他の紙」、「化学繊維糸と織物」、「パルプ」などが発送の主要品である。

到着では「九州内から」が42.9%を占め、「中部から」(21.8%)、「中国・四国から」(19.2%)の着荷が多い。「九州内から」では新聞巻取紙、その他の紙、加工紙と紙製品、パルプが主なもの、「中部から」はその他の紙、パルプ、「中国・四国から」はその他の紙、加工紙と紙製品がその主要品である。

表12—1 九州「繊維製品」生産量

(昭43年度)

単位 { 化学繊維・紡績糸：とん  
織物：1000m<sup>2</sup>

品 目	生産量	対前年比	対全国比
ス フ	26,268	94.7	7.1
人 絹 糸	43,221	107.8	30.7
合 成 繊 維 (短繊維)	10,036	103.9	2.5
同 上 (長 " )	24,772	143.4	8.0
計	104,297	110.1	8.6
綿 糸 (純)	16,196	104.2	3.2
ス フ 糸 (〃)	3,613	1,158.0	1.7
毛 糸 (〃)	1,366	261.6	0.8
麻 糸 (〃)	174	104.8	0.1
合 成 繊 維 糸 (〃)	3,280	132.4	0.9
計	24,629	142.3	1.8
綿 織 物	76,555	98.7	2.8
ス フ 織 物	12,635	126.3	1.5
絹 織 物	3,663	107.8	2.0
合 成 繊 維 織 物	11,331	102.9	0.6
計	104,184	102.2	1.8

資 料：「九州通商産業年報」昭和44年版

表12—2 九州「紙・パルプ」生産量

(昭43年度)

単位 { 紙・パルプ：とん  
セロファン：連

品 目	生産量	前年比	全国比
パ ル プ			
溶 解 パ ル プ	79,244	95.2	15.5
製 紙 パ ル プ	725,893	106.3	10.3
紙			
洋 紙	439,540	106.8	7.8
和 紙	132,897	109.6	2.9
セ ロ フ ァ ン	480,870	122.0	7.8

43年わが国の「パルプ」生産（686万とん）の大半は製紙用（634.6万とん）で、人絹・スフの原料となる溶解パルプは7.8%に過ぎない。輸入パルプ（78.5

万とん)でも製紙用は逐年ふえ、溶解用は減少(43年22.3%)しているが、近年合成繊維の生産が急増し溶解パルプに対する需要が減退しているためである一方紙の需要は年間10%の伸びであるため製紙用パルプは生産・輸入とも逐年伸びている。

九州のスフ生産(2.6万とん)は前年よりも5.3%減、品種ではビスコース・スフ(2.2万とん)がスフ生産の87.4%を占めるが対前年比6.2%減、キュプラ・スフ(3.3千とん)は1.4%減を示し、過剰設備として興人八代工場(日産27とん)が43年3月廃止された。

合成繊維の需要は全繊維中37.5%(全国)に当り将来合繊化は一段と進むと考えられるが、旭化成工業ナイロン工場の増設などもあって生産(3.4万とん)は前年比29.2%増を示した。

綿糸は過剰紡機廃棄の実施に伴い九州では44年3月までに8.2千錠(義務破棄6.6千錠、任意廃棄1.6千錠)を破碎したが、綿糸(純)生産(1.6万とん)は前年比4.2%増、混紡糸(7.2千とん)の生産は25.8%の増を示した。

人絹糸は主として織物用で、合成繊維に押され逐年減少傾向にあったが、43年は輸出好況に支えられ生産(4.3万とん、全国の30.7%に当る)は7.8%増、その品種はビスコース(1.8万とん)が7.2%増、キュプラ人絹糸(2.2万とん)は8.3%増であった。

綿スフ織物では九州綿スフ織物構造改善工業組合が設備ビルド(60百万円)を実施したが、生産は前年よりも1.3%減少した。綿織物の特産品である久留米緋の生産(707千反)は前年より2.2%減少したが、出荷(721千反)で3.9%増となった。しかし労働力不足・賃金上昇で経営はかなり苦しいようである。スフ織物は26.3%増であるが全国生産の1.5%に過ぎない。

絹織物は博多織、大島紬が大半を占めるが生産(3,663千 $m^2$ )は前年比7.8%増、博多織の代表博多帯(正絹物)の生産(1,124千本)、出荷(1,139千本)とも前年より11.7%、16.6%それぞれふえている。消費の高度化もあって品不足に推移した。大島紬は鹿児島、奄美とも産地は注文生産であるため在庫は払底し、生産、出荷ともに567千反は前年よりも6.6%増で推移した。

表12—3 九州「繊維工業品」発送とん数

(昭43年度)

(単位：1,000とん)

品目	九州 送計	九州内 向け	中国 国向け	四近 向け	畿向 向け	中部 向け	関東 向け	東北 向け	北海道 向け
総数	645	224	67	137	122	85	4	0	
綿花	1	0	0	0	—	0	—	0	
動植物繊維	0	0	0	0	0	0	—	—	
化学繊維	30	2	0	14	10	1	0	0	
綿糸・綿織物	1	0	0	0	0	0	—	—	
化学繊維糸と織物	73	0	0	30	29	11	—	—	
パルプ	153	71	16	26	17	11	—	0	
新聞巻取紙	113	97	0	13	0	0	—	—	
その他の紙	178	23	19	43	34	55	2	0	
加工紙と紙製品	72	23	10	7	26	3	1	—	
その他の繊維工業品	20	3	8	3	29	1	0	0	

表12—4 九州「繊維工業品」到着とん数

(昭43年度)

(単位：1,000とん)

品目	九州 着計	九州内 から	中国 国から	四近 から	中部 から	関東 から	東北 から	北海道 から
総数	522	224	100	49	114	22	3	7
綿花	9	0	0	7	0	0	—	—
動植物繊維	4	0	0	0	1	1	0	—
化学繊維	8	2	2	0	2	0	0	—
綿糸・綿織物	2	0	0	0	1	0	—	—
化学繊維糸と織物	2	0	0	0	0	—	0	—
パルプ	101	71	6	8	15	0	0	—
新聞巻取紙	107	97	6	0	2	0	—	—
その他の紙	194	23	49	20	82	9	2	6
加工紙と紙製品	84	23	33	10	6	10	0	0
その他の繊維工業品	7	3	0	1	0	1	0	0

製紙用パルプの生産（64.6万とん）は紙需要の旺盛に伴い7.8%増，出荷（64.9万とん）は8.9%増を示した。

紙，板紙はまず洋紙生産（40.5万とん），出荷（40.2万とん）が前年よりもそれぞれ7.3%増，6.6%増，品種別には新聞巻取紙（11.4万とん）が10.1%増，印刷用紙（11.5万とん）が27.9%の著増，筆記図画用紙（2.1万とん，1.4%減）

両更クラフト紙（4.3万とん，17.5%減），包装用紙（5.7万とん，5.1%減）などは市況が軟調であったため減産したが，板紙（13.2万とん）は9.6%増と順調な伸びを示した。

## H. 機 器 工 業 品

国鉄貨物分類による品目構成とは異なるが，福岡通産局調べの機械工業の生産額をあげておく。

43年九州の機械生産（2,461.7億円）のうち一般機械が51.1%で半ばを占め電気機械（29.5%），鋳鍛造品（15.0%），輸送機械（3.4%），その他（0.9%）の順である。鋳鍛造品の主なものは「銑鉄鋳物」（10.2%），「可鍛鑄鉄」（2.2%），「非鉄金属鋳物」（2.0%）などである。

工業統計調査によって機械器具の出荷額をあげると，九州（3,560.3億円）で前記の機械工業の生産額を1,098.6億円上回っている。これは機械工業の輸送用機械器具は自動車々体・同部分品，自転車・同部品，産業車両であって船舶を含んでいないのに対し，工業統計ではこれを含んでいるなどが差異を生じている主因であろう。

さて九州の機械工業は全国比2.2%という低率であるが，対前年比では25%増（全国も同率）である。松下電器，東芝，三菱電機，佐賀エレクトロニクス，日本抵抗器など，九州へ進出しており，松下電器は福岡・佐賀・熊本・宮崎に工場を有し，長崎・大分・鹿児島にも工場建設の計画をもっているが，これら電子工業は若年労働力とくに女子工員を雇用するのに九州の立地条件が有利であるためである。また筑豊地区には立石電機，ミツミ電機，日本タングステンの進出計画がある。安川電機，日立金属，三井工作，佐賀鉄工，岡野バルブなど新規に用地買収を進めている。43年度に産炭地域振興事業団の融資を受け進出する企業は30工場を超えうち設備投資1億円以上のものは直方機工，二島製作，近藤鉄工，三井工作，折尾鉄工，パロマ工業，日本度量衡器，直方立石電機，安川電機（以上は福岡県），佐賀鉄工，安永理研（佐賀県），辻産業，



表13—1 九州「機械工業」生産額  
(昭43年度)

(単位：百万円)

品 名	生産額	構成比	対前年比(%)
機械総生産額	246,170	100.0	124.6
一般機械	125,819	51.1	130.9
一般産業用機械	50,913	20.68	151.8
農業用機械器具	9,182	3.73	116.4
金属工作機械	2,554	1.04	141.6
金属加工機械	14,731	5.98	106.2
鑄造装置	8,255	3.35	111.0
食料品加工機械	347	0.14	94.5
製材および木工機械	100	0.04	47.7
ミシテ(テーブル)	138	0.06	—
冷凍機, 冷凍機 応用装置	5,485	2.23	125.9
鉄構物, 架線金物	16,591	6.73	120.7
ばね	433	0.18	120.5
その他の機械器具	17,085	6.94	136.2
電気機械	72,669	29.52	124.7
電気機械器具	55,960	22.73	122.8
電球	1,877	0.77	94.7
通信機械器具, 無線応用装置	—	—	—
ラジオ, テレビ受信機	6,694	2.72	116.9
通信電子装置部分附属品	3,461	1.41	159.8
電子管, 半導体素子	3,340	1.36	215.1
電池	1,335	0.53	107.8
輸送機械	8,387	3.40	113.0
光学機械(8mm映写機)	—	—	—
粉末や金製品	2,288	0.93	112.9
鑄鍛造品	37,006	15.04	109.7

資 料：「九州通商産業年報」昭和44年版

三扇工業(長崎県)などである。

前年に続き機械工業振興臨時措置法, 中小企業近代化促進法に基づいて, 指定業種別グループ化を進めたが, グループを結成したもののうち日本歯車九州グループは参加企業を8社から11社に拡大の予定で, 構造改善を進めるための

表13—2 機 械 器 具 類 出 荷 額

(昭43年度)

(単位：百万円)

県	別	計	機 械 器 具	電 気 機 器	輸送用機器	計量器その他
全	国	14,124,024	4,209,438	4,287,927	5,026,042	600,617
九	州	356,037	151,003	80,528	122,070	2,436
福	岡	173,013	94,581	57,189	20,097	1,146
佐	賀	15,062	4,489	6,690	3,810	73
長	崎	132,243	36,018	12,363	83,059	803
熊	本	14,157	10,036	2,785	1,273	63
大	分	14,267	2,579	278	11,250	160
宮	崎	3,658	1,549	1,196	898	15
鹿	児 島	3,637	1,751	27	1,683	176

共同事業計画を考えているという。

全九州銑鉄鋳物工業組合は構造改善をはかるため各県別グループの組織化を進め、さらに九州鍛造工業会、九州金属プレス工業会、福岡地区銅合金工業会も他地域の同業グループと連絡しながら組織強化中である。中小企業高度化資金貸付制度の助成で設置された中小企業機械工業団地は福岡3、長崎2、佐賀熊本、大分、鹿児島それぞれ1、計9団地で、事業は好転し、共同投資、共同受注、共同購入などの事業活動が積極化する動きがみられる。

九州内機械工業の生産は前記のように一般機械の伸びは31%増で、ボイラーおよび原動機、土木建設機械および鉱山機械、化学機械、ポンプ圧縮機および送風機、運搬機械、金属工作機械、バルブコックなど前年に比べ4～5割以上著増した機種である。電気機械25%増では通信電子装置の部品(60%増)、電子管および半導体素子(2倍増)、また輸送機械(13%増)は産業車両(14.6億円)が94.6%著増、自動車々体・同部品(47.0億円)、自転車・同部品(22.2億円)は生産額は多いがその伸びは2.7%増、6.4%増である。鋳鍛造品(370.0億円)のうち銑鉄鋳物(251.5億円)が10%増、可鍛鋳鉄(53.3億円)は24.4%増、非鉄金属鋳物(47.9億円)が10.9%増などが主なものである。

43年国鉄による機器工業品の輸送は「到着」(77.1万とん)が「発送」(41.1

表13—3 九州「機器工業品」発送とん数

(昭43年度)

(単位：1,000とん)

品 目	九 州 発送計	九 州 内向け	中国四 国向け	近畿 向け	中部 向け	関東 向け	東北 向け	北海道 向け
総 数	411	192	83	19	28	59	18	9
産 業 機 械	25	1	2	6	3	6	2	3
そ の 他 機 器 類	20	2	1	4	2	6	1	1
農 機 具	29	1	7	0	4	8	5	1
甲 種 の 鉄 道 車 両	155	101	47	2	1	2	0	0
そ の 他 の 車 両	21	17	0	0	0	1	0	0
車 両 部 分 品	32	0	8	0	4	14	2	1
ま く ら 木	25	16	8	0	0	0	—	—
レールと鉄管	35	17	2	0	7	3	3	0
電 柱	6	5	0	0	0	0	0	—
か ん 類	20	17	1	0	0	0	0	—
その他の機械工業品	39	11	4	2	2	14	3	0

万とん)を大きく上回っているが、福岡(19.5万とん)が47.5%で首位、「甲種の鉄道車両」(3.9万とん)、「車両部分品」(3.1万とん)、「レールと鉄骨」(2.1万とん)、「まくら木」(1.9万とん)、「かん類」(1.8万とん)などが上位を占め、大分発(3.5万とん)のうち「その他の車両」(1.5万とん)、「レールと鉄骨」(9.0千とん)が多く、熊本(8.6万とん)は「農機具」(2.4万とん)、「甲種の鉄道車両」(5.5万とん)が主要なものである。国鉄品目分類でいう「甲種の鉄道車両」とは自己の車輪で運転して運送されるものとなっているが、これが九州全域では発送(15.5万とん)のうち九州内向け(10.1万とん)、中国地方向け(4.6万とん)が多く、到着(12.9万とん)は九州内から(10.1万とん)のほか中国地方から(8.7千とん)、近畿から(6.5千とん)、関東から(5.9千とん)、中部から(5.5千とん)それぞれ到着している。

機器工業品の仕向先は九州内向け(19.2万とん)が46.8%で「甲種の鉄道車両」(10.1万とん)、「かん類」,「レールと鉄管」,「その他の車両」がいずれも1.7万とん,「まくら木」(1.6万とん)の順でこれらが主要品である。ついで中国地方向け(7.3万とん)は「甲種の鉄道車両」(4.6万とん)のほか「車両部

表13—4 九州「機器工業品」到着とん数

(昭43年度)

(単位：1,000とん)

品 目	九 州 到着計	九 州 内から	中国四 国から	近畿 から	中部 から	関東 から	東北 から	北海道 から
総 数	771	192	60	122	175	206	11	2
産 業 機 械	62	1	1	6	27	23	2	0
そ の 他 機 器 類	24	2	0	3	5	11	0	0
農 機 具	63	1	19	12	12	11	4	0
甲 種 の 鉄 道 車 両	129	101	8	6	5	5	0	—
そ の 他 の 車 両	254	17	14	36	100	85	0	0
車 両 部 分 品	12	0	0	2	1	7	1	0
ま く ら 木	20	16	2	1	0	0	—	0
レールと鉄管	59	17	5	17	6	11	0	—
電 柱	18	5	0	7	0	4	—	—
か ん 類	30	17	0	5	3	2	0	0
その他の機械工業品	94	11	5	22	12	41	0	0

(注) 単位未満切捨

分品」,「まくら木」(とせに7千とん)など、関東向け(5.9万とん)も「車両部分品」(1.4万とん),「農機具」(8.4千とん),「産業機械」,「その他の機器類」(ともに6千とん)を主とし、中部向け(2.8万とん)は「レートと鉄管」(7.5千とん)のほか「車両部分品」,「農機具」(それぞれ4千とん),近畿向け(1.9万とん)は「産業機械」(6.4千とん),「その他の機器類」(4.3千とん),東北向け(1.8万とん)は「農機具」(5.1千とん),「レートと鉄管」(3.4千とん),「産業機械」,「車両部分品」(それぞれ2.4千とん)がその主な発送品である。

到着(77.1万とん)の主要品は「その他の車両」(25.4万とん),「甲種の鉄道車両」(12.9万とん),「農機具」(6.3万とん),「産業機械」(6.2万とん),「レートと鉄管」(5.9万とん)が上位にあるが、到着県別では福岡(48.1万とん)が62.5%を占め「その他の車両」(23.1万とん),「甲種の鉄道車両」(6.6万とん)で大半を占める。大分着(7.1万とん)は「甲種の鉄道車両」(2.9万とん),「産業機械」(8.7千とん),「かん類」(5.3千とん)など、宮崎(7.7万とん)は「甲種の鉄道車両」(1.9万とん),「その他の車両」(1.4万とん),熊本着

(5.2万とん)のうち「農機具」(1.3万とん)、「甲種の鉄道車両」(7.2千とん)、「その他の車両」,「産業機械」がそれぞれ5千とん,長崎着(3.8万とん)は「まくら木」(1.4万とん)、「産業機械」(5.2千とん)など,鹿児島着(3.7万とん)は「産業機械」(6.9千とん)、「農機具」(5.9千とん)、「電柱」(4.8千とん),佐賀着(2.8万とん)は「かん類」(5.5千とん)、「甲種の鉄道車両」(4.3千とん)などであるが,以上の仕出地は「九州内から」(19.2万とん),中部から(17.5万とん),近畿から(12.2万とん),関東から(20.6万とん)着荷している。到着品の首位「その他の車両」は中部から(10.0万とん),関東から(8.5万とん),近畿から(3.6万とん)が多く,「甲種の鉄道車両」は九州から(10.1万とん),中国から(8.7千とん),近畿から(6.5千とん),関東・中部から(それぞれ5千とん)着荷している。

## I. 食 料 工 業 品

43年国鉄の食料工業品輸送は到着(67.2万とん)が発送(60.8万とん)を上回っているが,発送では福岡(37.9万とん)が62.3%で首位,熊本(4.2万とん),鹿児島(5.1万とん),佐賀(4.2万とん),宮崎(3.5万とん),大分(2.1万とん),長崎(1.0万とん)の順である。福岡は「ビール」(21.4万とん)が発送の56.6%に当り,鹿児島は「穀粉澱粉類」(2.4万とん)が48.7%,熊本は「小麦粉」が28.3%,「しょう油」が20.7%,佐賀は「小麦粉」(2.0万とん)が47.8%,宮崎は「穀粉澱粉類」(2.2万とん)が61.8%,大分は「かん詰びん詰」(9.0千とん)が41.0%を占めるなど県により主要発送品に差異がみられる。仕向先は九州内向け(39.9万とん)が65.6%を占め,そのうち「ビール」(20.6万とん)が51.7%,「小麦粉」(6.7万とん)が17.0%などが多く,中国地方向け(9.1万とん)は「小麦粉」(3.6万とん)が39.4%に当り,関東向け(3.5万とん)は「かん詰びん詰」(1.1万とん)が33.2%,近畿向け(9.1万とん)は「小麦粉」(1.3万とん)が29.2%に当りこれらが発送品の主要仕向先と主な品目である。

表14—1 九州「食料工業品」発送とん数

(昭和43年度)

(単位：1,000とん)

品 目	九 州 発送計	九 州 内向け	中国四 国向け	近畿 向け	中部 向け	関東 向け	東北 向け	北海道 向け
総 数	608	399	96	46	19	35	9	3
小 麦 粉	119	67	36	13	0	1	—	0
穀 粉 澱 粉 類	50	25	17	2	1	3	0	—
砂 糖	20	12	6	0	0	0	0	—
清 涼 飲 料 水 類	14	7	2	0	0	1	0	0
た ば こ	28	10	7	6	2	2	0	—
清 酒	6	0	0	4	0	0	0	—
合 成 酒	18	11	5	0	0	0	0	—
ビ ー ル	215	206	7	1	—	0	—	—
そ の 他 の 酒	3	0	1	0	0	0	0	0
み そ	0	0	—	—	0	—	—	—
し ょ う 油	28	20	0	0	—	6	—	—
かん詰びん詰食品	44	12	3	5	6	11	4	1
その他の食料工業品	58	22	5	10	7	6	3	0

到着(67.2万とん)も福岡着(25.3万とん)が37.7%に当其の主なものは「ビール」(5.6万とん),「穀粉澱粉類」(9.8万とん),「小麦粉」(2.0万とん)などである。鹿児島(9.0万とん)が第2位,「ビール」(3.6万とん),「小麦粉」(1.6万とん)が上位を占め,長崎着(7.9万とん)も「ビール」(4.0万とん),「小麦粉」(1.5万とん),宮崎(7.7万とん)も「ビール」(3.3万とん),「小麦粉」(1.3万とん)である,このほか「ビール」は熊本(3.2万とん),大分(2.2万とん)も多く,「小麦粉」は上記のほか大分(8.3千とん),佐賀(6.1千とん)などが多い。食料工業品の仕出地は「九州内から」(39.9万とん)が首位であるが,その主要品は「ビール」(20.6万とん),「小麦粉」(6.7万とん),「穀粉澱粉類」(2.5万とん),「しょう油」(2.0万とん)である。近畿から(6.8万とん)は「しょう油」(1.0万とん),「清涼飲料水類」(8.5千とん),「小麦粉」,「ビール」(各々5千とん)など,中国地方から(6.4万とん)は「清涼飲料水類」(1.2万とん),「砂糖」(7.4千とん)など,関東から(5.7万とん)は「しょう油」(2.2万とん),「ビール」(5.8千とん)など,中部から

(5.2万とん)は「穀粉澱粉類」(8.2千とん)、「かん詰びん詰食品」(8.2千とん)などが主なものである。

表14—2 九州「食料工業品」到着とん数

(昭43年度)

(単位：1,000とん)

品 目	九州 到着計	九州 内から	中国四 国から	近畿 から	中部 から	関東 から	東北 から	北海道 から
総 数	672	399	71	68	52	57	15	7
小 麦 粉	83	67	10	5	3	0	—	—
穀 粉 澱 粉 類	42	25	6	4	8	2	0	0
砂 糖	21	12	8	0	—	0	—	—
清 涼 飲 料 水 類	38	7	20	8	4	3	0	—
た ば こ	17	10	5	1	0	0	0	—
清 酒	2	0	2	0	0	0	0	—
合 成 酒	19	11	6	2	0	0	—	—
ビ ー ル	223	206	10	5	1	5	0	—
そ の 他 の 酒	6	0	1	0	3	0	0	0
み そ	3	0	0	0	2	0	0	—
し ょ う 油	53	20	10	10	0	22	—	—
かん詰びん詰食品	42	12	5	2	8	3	12	0
その他の食料工業品	115	22	44	25	21	17	2	6

(注) 単位未満切捨

## J. 危 険 品

43年九州「危険品」の発送(62.3万とん)に対し到着(70.6万とん)が上回っている。発送では福岡(33.8万とん)が54.3%,大分(12.2万とん)が19.6%,宮崎(16.0%)の順,到着は熊本(21.2万とんで30.1%),福岡(18.0万とんで25.5%),宮崎(13.4万とんで18.9%)と続く。発送の仕向先は九州内向け(45.7万とん)が73.4%で首位,中国向け(4.4万とん),近畿・関東・中部ともに3.5~3.7万とんでこれにつぐ。到着でも九州内からの着荷(45.7万とん)が64.9%に当り,中国地方から(20.7万とん),近畿・関東からそれぞれ1万とんが着荷している。

危険品発送の42.1% (26.2万とん) を占め首位にあるのは「化学薬品」であるが、この品目はさきに表1 主要貨物140 品目別一覧表に示したようにアセチレンガス、天然ガス、ベンゾール、トリオール、キシロール、アメルアルコール、アルコール、二酸化炭素、アセトン等その他引火性液体を含む広汎な品目である。

表15—1 九州「火薬類」生産量  
(昭43年度) (単位: とん)

製 品 名	生産量	対前年比
産業用火薬類計	15,955	109
こう質ダイナマイト	9,601	121
粉状ダイナマイト	229	81
硝 安 爆 薬	2,987	83
硝 油 爆 薬	2,845	114
黒 色 火 薬	176	68
そ の 他	117	148

資 料 : 九州通商産業年報. 昭44年版

表15—2 九州「ガス」生産・購入量  
(昭43年度) (単位: 100万kcal)

種 別	生産購入量	構成比	前年比
計	1,549,793	100.0	112
石 炭 ガ ス	142,835	9.2	77.2
水 性 ガ ス	23,080	1.5	25.4
オイルガス	930,821	60.0	136
液化石油ガス	27,266	1.8	127
購 入 ガ ス	425,790	27.5	107

これらの内訳別の流動量は不明であるが、これらの九州生産量が判るものについては参考までに資料をあげることにする。

まず「ガス」の生産・購入については「オイルガス」が60.0%を占めて最も多く、「購入ガス」(27.5%), 「石炭ガス」(9.2%) の順であって、対前年比は全体で12%増えている。

43年九州「ガス」(事業所19) 販売量(1,451,551百万kcal) は前年比15%増であるが、西部ガスが76%を占め、残りを18業者で供給している。家庭用72.2% (1.5%増)、商業用は16.9% (0.7%減)、工業用2.9% (0.7%減)、その他8.0% (0.1%減) の割合である。これを数量的にみると家庭用は18%増となり、工業用のみが5.4% 減となるのは競合燃料であるプロパンガスへの切替えによるものとみられている。

「タール製品」のうちベンゾールなどと、「アルコール」の生産量をつぎに



表15—3 九州「危険品」発送とん数

(昭43年度)

(単位：1,000とん)

品 目	九州 発送計	九州 内向け	中国四 国向け	近畿 向け	中部 向け	関東 向け	東北 向け	北海道 向け
総 数	623	457	46	37	35	36	8	1
火 薬 類	16	7	1	1	2	1	0	0
プロパンガス	50	50	—	—	—	—	—	—
鉱 油 原 油	0	—	—	—	0	—	—	—
揮 発 油	148	148	0	0	0	0	—	—
肥 料 硝 安	10	1	0	0	5	0	0	0
生 石 灰	34	34	—	—	—	—	—	—
硫 酸	87	85	1	—	—	0	—	—
化 学 薬 品	262	128	42	30	26	29	4	0
そ の 他 の 危 険 品	12	0	0	4	1	4	1	—

表15—4 九州「危険品」到着とん数

(昭43年度)

(単位：1,000とん)

品 目	九州 到着計	九州 内から	中国四 国から	近畿 から	中部 から	関東 から	東北 から	北海道 から
総 数	706	457	213	10	8	10	5	0
火 薬 類	12	7	2	0	1	1	0	0
プロパンガス	199	50	144	1	—	2	—	—
鉱 油 原 油	—	—	—	—	—	—	—	—
揮 発 油	183	148	30	4	0	0	0	—
肥 料 硝 安	1	1	0	—	—	—	—	—
生 石 灰	39	34	5	—	—	—	—	—
硫 酸	89	85	3	—	0	—	—	—
化 学 薬 品	171	128	25	1	5	5	4	—
そ の 他 の 危 険 品	8	0	1	2	1	0	1	—

(注) 単位未満切捨

あげておく。ベンゾールは前年に比べ2%減，アルコールは95.0%アルコールで全国比29.1%に当る。産地は鹿児島県鹿屋（446.4万ℓ），出水（20.4万ℓ）熊本県大津（426.0万ℓ），八代（60.0万ℓ），長崎（120.5万ℓ）であるが，このほかに出水で無水アルコール（99.5%）を生産（1,234.3万ℓ）している。

さて国鉄による「化学薬品」輸送は、発送では福岡（9.0万とん）と大分（5.7万とん）が大半を占め、その仕向先は九州内向け（12.8万とん）が49.0%で中国地方（4.0万とん）、近畿（3.0万とん）、関東（2.9万とん）、中部

表15—5 九州「タール製品」  
「アルコール」生産量  
(昭43年度)

品 目	生産(とん)	前年比
粗ベンゾール	136,862	98%
純ベンゾール	100,797	98
純トルオール	20,650	101
キシロール	2,522	104
アルコール(95.0%アルコール)	10,734(千ℓ)	...

資 料：同前，単位未満切捨

(2.6万とん)の順で東北・北海道へも仕向けられている。到着(17.1万とん)は福岡着(6.4万とん)、熊本(3.8万とん)、宮崎(2.6万とん)佐賀(1.7万とん)、大分(1.5万とん)などの順でその仕出地は九州内から(12.8万とん)が75.1%を占め中国地方(1.9万とん)、東北・関東からそれぞれ5千とんが着荷している。

「プロパンガス」は発送(5.0万とん)ではその仕向先は全量が九州向け、その仕出地は大分(2.2万とん)、佐賀(1.9万とん)、福岡(8.7千とん)が主なものである。到着(19.9万とん)は発送を大きく上回っているが、熊本着(4.9万とん)が最も多く、福岡(4.4万とん)、鹿児島(3.0万とん)、長崎(2.8万とん)、宮崎(2.5万とん)、佐賀着(1.6万とん)などの順で、その仕出地は中国地方から(14.4万とん)と九州内から(5.0万とん)着荷するものが主である。

「プロパンガス」とかLPGと呼ばれる液化石油ガスは石油精製工場、石油化学工場で副産するプロパン、プロピレン、ブタン、ブレチンなど、加圧すると容易に液化するガスが成分である。各種の燃料・原料としてすぐれているので近年生産・消費とも急増している。わが国液化石油ガス販売の36%は家庭用燃料であるが、18%は自動車に使用され、そのほか工業燃料、化学原料に向けられる。43年九州の液化石油ガスの生産(2,726.6百万kcal)は前年比27%増を示した。わが国液化石油ガスの生産(470.7万とん)のほか輸入(172.7万とん)によって需要を充たしている。

「揮発油」発送（14.8万とん）は福岡（9.0万とん）と大分（5.7万とん）仕出しが大半を占め、到着（18.3万とん）は発送を上回るが、熊本着（8.7万とん）、宮崎（3.2万とん）、佐賀（3.1万とん）、福岡着（2.6万とん）の順である。その仕向先は大半が九州内向け（14.8万とん）であり、また仕出地は九州内から（14.8万とん）のほか中国地方から（3.0万とん）、近畿から（4.2千とん）が着荷している。

「硫酸」は基礎無機薬品の一つで用途が工業全般にわたる関係もあって、その消費量はその国の工業水準を示すといわれ、わが国はアメリカ、ソ連について第3位で、化学肥料の原料から近年は伸びの大きい化学繊維、無機薬品など工業用にその割合が変わりつつある。従来の化学肥料工場での硫化鉄鉱からの生産方式に代わり、非鉄金属精練工業の廃ガス（硫化銅鉱などばい焼する際、発生する亜硫酸ガス）を利用する製法がふえつつある。また重油の硫黄分除去（脱硫）の際の副産硫黄が硫酸原料に使用されている。

表15—6 九州「硫酸」生産量  
(昭43年度)

品 目	生産(千とん)	対前年比
硫 酸	1,241	108
鉛 室 硫 酸	164	100
接 触 硫 酸	1,076	108

資 料：同前，単位未満切捨

表15—7 九州「石灰」生産量  
(昭43年度)

品 目	生産(千とん)	対前年比
生 石 灰	651	93%
硝 石 灰	91	102

資 料：同前，単位未満切捨

九州の硫酸生産は124.1万とんで前年比8%増であるが、接触硫酸が大半（86.7%）を占めている。

「生石灰」の発送（3.4万とん）、到着（3.9万とん）と後者が上回っているが、発送は福岡（2.8万とん）、熊本（6.3千とん）が主な仕出地で、仕向先はすべて九州内である。到着は福岡着（3.2万とん）が主で宮崎（3.3千とん）、佐賀（2.7千とん）、長崎（1.0千とん）などでその仕出地は九州から（3.4万とん）のほか中国地方から（4.9千とん）も着荷している。43年九州の生産量は生石灰（65.1万とん）が前年比7%減、硝石灰（9.1万とん）は逆に2%増を

示した。

「火薬類」の生産は産業用（43年1.5万とん）であるが、前年に比べ9%増であった。国鉄による発送（1.6万とん）は宮崎（1.3万とん）発が82.7%を占めているが、これは旭化成の製品であろう。ついで福岡（1.9千とん）発であるが、それらの仕向先は九州内向け（7.3千とん）、長崎（2.8千とん）、佐賀（1.4千とん）、熊本（1.3千とん）などが主なものである。到着（1.2万とん）は福岡着（6.9千とん）、長崎（2.2千とん）、熊本着（1.3千とん）が主で、その仕出地は九州内から（7.3千とん）、中国地方から（2.4千とん）、関東から（1.2千とん）着荷している。

## K. 雑工業品

これは発送（10.9万とん）のうち「荷造用品」（7.8万とん）が71.4%を占めるが、福岡発（4.0万とん）、熊本（1.0万とん）、宮崎（8.1千とん）、大分・鹿

表16—1 九州「雑工業品」発送とん数

（昭43年度）

（単位：1,000とん）

品 目	九 発 送	九 州 計 向	九 州 内 向	中 国 内 向	・ 四 国 向	近 畿 向 け	中 部 向 け	関 東 向 け	東 北 向 け	北 海 道 向 け
総 数	109		36		14	19	8	21	4	5
家 庭 電 器	2		0		0	0	0	0	0	0
荷 造 用 品	78		29		11	16	5	12	1	0
その他の雑工業品	29		7		2	2	2	8	2	4

表16—2 九州「雑工業品」到着とん数

（昭43年度）

（単位：1,000とん）

品 目	九 到 着	九 州 計 か	九 州 内 か	中 国 内 か	・ 四 国 か	近 畿 か ら	中 部 か ら	関 東 か ら	東 北 か ら	北 海 道 か ら
総 数	203		36		21	52	37	51	5	0
家 庭 電 器	56		0		0	15	16	24	—	—
荷 造 用 品	83		29		15	17	8	12	0	0
その他の雑工業品	63		7		5	19	12	14	4	0

（注）単位未満切捨

児島・佐賀がそれぞれ5千とんを発送し、九州内向け（2.9万とん）、近畿（1.6万とん）、関東（1.2万とん）、中国地方向け（1.0万とん）、中部向け（5.7千とん）の順である。到着（8.3万とん）は福岡着（3.3万とん）、宮崎（1.6万とん）、大分（1.0万とん）、熊本着（9.7千とん）、鹿児島（7.8千とん）の順で、仕出地は九州内から（2.9万とん）、近畿から（1.7万とん）、中国地方から（1.4万とん）、関東から（1.2万とん）、中部から（8.5千とん）着荷している。

「家庭電器」発送（2.2千とん）は大半福岡発（2.1千とん）でその仕向先は関東（689とん）、中部（436とん）、近畿（322とん）、北海道・東北・四国向けそれぞれ200とん台である。到着（5.6万とん）はこれまたその大部分は福岡着（4.6万とん）で、大分（2.1千とん）、宮崎（928とん）を除き他の4県はいずれも1千とん台である。これらの仕出地は関東から（2.4万とん）が最も多く中部から（1.6万とん）、近畿から（1.5万とん）などが主なものである。

(1972.10.14)